

2018年度 研究所事業報告書

研究所名	人間科学研究所
------	---------

I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および2018年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

1. 重点プロジェクトの推進

昨年度に続き以下の3課題を重点プロジェクトとし、第3期R-GIROの2つの研究プロジェクト(修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築、ならびに、学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成)と連携を行いつつ、研究展開を行った。下記3つのプロジェクトに25のサブ・プロジェクトを組み込んだ研究プロジェクトを実施し、多彩な活動が展開された。各プロジェクトの特筆すべき成果・取り組みは以下の通りである。

(1)「法と対人援助」: 法心理・司法臨床における対人援助課題に対して主に4つの活動を行った。①多分野の研究者・実務家が連携し、えん罪被害、性的虐待、受刑者処遇などに関する実践研究を行った。②海外機関との共同研究を推進し国際シンポジウムを開催した。③若手研究者に対し、海外での発信に加え、国際集会の提案や企画を奨励した。④社会的発信や社会連携のために、市民を対象とした集会を積極的に開催した。

(2)「対人援助の学融的研究」: 乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の人々、また障害や疾病、国籍においても多様な人々を対象にさまざまな方法論による研究が行われ、成果を上げた。シンポジウム開催や市民への講演会など、社会に向けた研究成果発信も精力的になされたほか、学官地連携による研究体制も強化された。また、TEA国際学会の設立により、質的研究の拠点としての基盤が確立した。

(3)「対人援助の人間科学(基礎・応用)」: 2018年度も、対人援助に関わる基礎的・応用的研究を多岐に渡って、実施した。特徴的な成果としては、①高齢者を対象として、エラー後の対応の特徴を実験的に明らかにした点。②自閉症スペクトラム児を対象として、遊びを中心とする領域プログラム開発を実施した点。③医療福祉の観点から、インクルーシブ社会に向けた様々な提言を行った点。④読書アクセスビリティに関する総合的研究を実施した点である。その他、心理学の基礎的研究から、地域支援に関わる応用的研究を実施した。

また、2019年2月に混合研究法学会と連携し、混合研究法をテーマとした研究所総会を開催し、研究所を基盤として展開されているさまざまな研究報告を行い、研究者相互の交流を促進した。

2. 学術誌の刊行と多様な手段による情報発信

(1)『立命館人間科学研究』2号を刊行し、同時に全文をWeb公開した(一部予定)。掲載論文の多くは、外部査読者を含む2名以上の査読を経たもので、計16本の論文を掲載した。

(2)研究成果の社会的発信を促進するため、日英両言語により「人間科学のフロント」(研究紹介ページ)を公開するとともに、ソーシャルメディア等Web上で積極的な情報発信を行った。

(3)2018年4月の立命館土曜講座を担当し、テーマを「社会の中の人間科学」をテーマとして4回の公開講座を行った。

3. 若手研究者の育成

各種プロジェクト・活動の推進にあたり、大学院生(特に、後期課程)、ポストドクトラル・フェローなどを含め、人間科学の次世代の担い手の育成に努めた。研究所重点研究プログラムを活用し、萌芽的プロジェクト研究助成プログラムを継続して実施するとともに、次年度以降の研究展開に向けて検討を行った。また、プロジェクト室をはじめとする研究資源について、若手研究者を中心に配分し、研究基盤の形成を大いに支援した。

4. その他研究の展開

重点プロジェクト以外の研究プロジェクトもまた、意欲的な活動を行った。重点プロジェクトに直接含まれない14プロジェクトにおいて研究活動を推進した。また、優生保護法、家庭内DV、えん罪救済など時事問題に絡んだ研究について各種メディアより取材依頼・引用・参照されるなど、社会から注目・評価されたことも特筆したい。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2019年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	松田 亮三	産業社会学部	教授
運営委員	中村 正	産業社会学部	教授
	岡田 まり	産業社会学部	教授
	山本 耕平	産業社会学部	教授
	村本 邦子	人間科学研究科	教授
	増田 梨花	人間科学研究科	教授
	稲葉 光行	政策科学部	教授
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
	松原 洋子	先端総合学術研究科	教授
	岸 政彦	先端総合学術研究科	教授
	サトウタツヤ	総合心理学部	教授
	谷 晋二	総合心理学部	教授
	矢藤 優子	総合心理学部	教授
	土田 宣明	総合心理学部	教授
	森久 智江	法学部	教授
	安田 裕子	総合心理学部	准教授
若林 宏輔	総合心理学部	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	山浦 一保	スポーツ健康科学部	教授
	平岡 義博	衣笠総合研究機構	教授
	早川 岳人	衣笠総合研究機構	教授
	堀江 未来	国際教育推進機構	教授
	大谷 いづみ	産業社会学部	教授
	斎藤 真緒	産業社会学部	教授
	竹内 謙彰	産業社会学部	教授
	津止 正敏	産業社会学部	教授
	野田 正人	産業社会学部	教授
	小澤 亘	産業社会学部	教授
	櫻谷 真理子	産業社会学部	教授
	石倉 康次	産業社会学部	教授
	荒木 穂積	人間科学研究科	教授
	中村 隆一	人間科学研究科	教授
	団 士郎	人間科学研究科	教授
	吉 沅洪	人間科学研究科	教授
	DUMOUCHEL Paul	先端総合学術研究科	教授
	仲 真紀子	総合心理学部	教授
	星野 祐司	総合心理学部	教授
	岡本 直子	総合心理学部	教授

		八木 保樹	総合心理学部	教授
		服部 雅史	総合心理学部	教授
		北岡 明佳	総合心理学部	教授
		廣井 亮一	総合心理学部	教授
		山本 博樹	総合心理学部	教授
		宇都宮 博	総合心理学部	教授
		東山 篤規	総合心理学部	教授
		北出 慶子	文学部	教授
		湯浅 俊彦	文学部	教授
		常世田 良	文学部	教授
		原 幸一	文学部	教授
		春日井 敏之	文学部	教授
		二宮 周平	法学部	教授
		松本 克美	法務研究科	教授
		斎藤 進也	映像学部	准教授
		藤本 学	教育開発推進機構	准教授
		荒木 寿友	教職研究科	准教授
		開沼 博	衣笠総合研究機構	准教授
		渡辺 克典	衣笠総合研究機構	准教授
		山口 洋典	共通教育推進機構	准教授
		丸山 里美	産業社会学部	准教授
		岡本 尚子	産業社会学部	准教授
		三田村 仰	総合心理学部	准教授
		中鹿 直樹	総合心理学部	准教授
		林 勇吾	総合心理学部	准教授
		澤野 美智子	総合心理学部	准教授
		武田 知明	OIC 総合研究機構	助教
		上宮 愛	総合心理学部	特任助教
		都賀 美有紀	総合心理学部	特任助教
		京屋 郁子	総合心理学部	特任助教
		對梨 成一	文学部	助教
		金 成恩	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教
		土田 菜穂	総合心理学部	助手
		廣瀬 翔平	総合心理学部	助手
		春日 秀朗	文学部	助手
		村上 嵩至	文学部	助手
学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	川端 美季	衣笠総合研究機構	専門研究員
		TAJAN Nicolas	衣笠総合研究機構	専門研究員
		相澤 育郎	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		山崎 優子	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		孫 怡	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		肥後 克己	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		神崎 真実	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員

	妹尾 麻美	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
	山田 早紀	立命館グローバル・イノベーション研究機構	研究員
	藤戸 麻美	立命館グローバル・イノベーション研究機構	研究員
② リサーチアシスタント			
③ 大学院生	横井 風音	応用人間科学研究科	修士課程
	河上 実樹	応用人間科学研究科	修士課程
	堀内 悠	応用人間科学研究科	修士課程
	三宅 結佳	応用人間科学研究科	修士課程
	武居 樹	応用人間科学研究科	修士課程
	福田 瑞穂	応用人間科学研究科	修士課程
	野口 有里恵	応用人間科学研究科	修士課程
	鈴木 航平	応用人間科学研究科	修士課程
	神戸 希	応用人間科学研究科	修士課程
	川島 ひでき	応用人間科学研究科	修士課程
	山田 翔大	応用人間科学研究科	修士課程
	北川 理沙	応用人間科学研究科	修士課程
	近藤 優佳	応用人間科学研究科	修士課程
	HE Wanqi	応用人間科学研究科	修士課程
	HUANG Xinzhe	国際関係研究科	博士後期課程
	和田 真依	社会学研究科	博士前期課程
	PARK Yeong Gyun	社会学研究科	博士前期課程
	大倉 一紀	社会学研究科	博士前期課程
	AO Weiyi	社会学研究科	博士前期課程
	圓山 歩実	社会学研究科	博士前期課程
	小嶋 理恵子	社会学研究科	博士後期課程
	金森 京子	社会学研究科	博士後期課程
	江頭 典江	社会学研究科	博士後期課程
	大原 ゆい	社会学研究科	博士後期課程
	手島 洋	社会学研究科	博士後期課程
	西田 朗子	社会学研究科	博士後期課程
	目黒 朋	社会学研究科	博士後期課程
	富井 奈菜実	社会学研究科	博士後期課程
	松元 祐	社会学研究科	博士後期課程
	高木 玉江	社会学研究科	博士後期課程
	大西 真樹男	社会学研究科	博士後期課程
	WANG Wei	社会学研究科	博士後期課程
	坂井 めぐみ	先端総合学術研究科	博士課程
	駒澤 真由美	先端総合学術研究科	博士課程
	饗庭 桃子	人間科学研究科	博士前期課程
	李 星鎬	人間科学研究科	博士前期課程
井出 悠香子	人間科学研究科	博士前期課程	
浮田 千紗子	人間科学研究科	博士前期課程	
鈴木 ひかり	人間科学研究科	博士前期課程	

	上仲 晴菜	人間科学研究科	博士前期課程
	坂口 龍也	人間科学研究科	博士前期課程
	中島 瑞徳	人間科学研究科	博士前期課程
	藤田 佳恵	人間科学研究科	博士前期課程
	朝倉 みずき	人間科学研究科	博士前期課程
	佐藤 友紀	人間科学研究科	博士前期課程
	大橋 佳奈	人間科学研究科	博士前期課程
	植木 雪音	人間科学研究科	博士前期課程
	内田 信之介	人間科学研究科	博士前期課程
	寺岡 芽美	人間科学研究科	博士前期課程
	XU Man	人間科学研究科	博士前期課程
	瀬口 篤史	人間科学研究科	博士後期課程
	平松 祐佳	人間科学研究科	博士後期課程
	ZHANG Pin	人間科学研究科	博士後期課程
	星田 雅弘	人間科学研究科	博士後期課程
	LIU Qiang	人間科学研究科	博士後期課程
	河野 暁子	人間科学研究科	博士後期課程
	朴 希紗	人間科学研究科	博士後期課程
	LIAN Jietao	文学研究科	博士前期課程
	土元 哲平	文学研究科	博士後期課程
中田 友貴	文学研究科	博士後期課程	
④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)			
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研 究生、研修生等)	斧原 藍	立命館グローバル・イノベーション研究機構	補助研究員
	大野 静代	産業社会学部	授業担当講師
客員協力研究員	吉田 一史美	衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	山崎 まどか	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	乾 明紀	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	恒松 伸	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	高山 仁志	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	上村 晃弘	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	吉田 甫	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	石川 眞理子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	高橋 伸子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	安井 美鈴	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	戸名 久美子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	松島 京	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	由井 秀樹	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	村上 慎司	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
棟居 徳子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員	

	高山 一夫	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	荒木 美知子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	植村 要	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	古川 心	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	西川 大輔	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	浅田 和茂	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	浜田 寿美男	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	笹倉 香奈	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	荒木 晃子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	高橋 康史	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	川本 静香	立命館グローバル・イノベーション研究機構	客員協力研究員
その他の学外者	岡部 茜	大谷大学	講師
	金 吉晴	国立精神神経医療研究センター・成人精神保健研究部	部長
	松島 明日香	滋賀大学	専任講師
	津富 宏	静岡県立大学	教授
	滑田 明暢	静岡大学大学教育センター	講師
	大川 一郎	筑波大学	教授
	衛藤 真規	東京大学大学院 教育学研究科	博士課程
	坂田 陽子	愛知淑徳大学 心理学部	教授
	KAMM Björn-Ole	京都大学文学研究科	講師
	坪井 宏仁	金沢大学 医薬保健研究域薬学系	准教授
	渡辺 英治	大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研究所	准教授
	坂本 貴和子	大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所総合生理研究部門	特任准教授
	春日 彩花	大阪大学大学院人間科学研究科	博士後期課程
	與久田 巖	大阪夕陽丘学園短期大学	准教授
	福田 茉莉	島根大学 医学部環境保健医学講座	助教
	茂野 賢治	東京学芸大学 IMPULS OECD-TALIS2018 ビデオスタディ 分析・教員研修支援*	短期専門研究員
	南 大貴	岐阜県飛騨子ども相談センター	
	澤 智恵	Tokyo English Life Line (TELL)	
	荻原 かおり	Tokyo English Life Line (TELL)	
	小田 博子		
片桐 直哉			
吉村 昌子			
安 孝淑			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2019年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	稲葉 光行	質的心理学事典	分担執筆	2018年11月	新曜社	能智 正博(編集代表)、香川 秀太・川島 大輔・サトウ タツヤ・柴山 真琴・鈴木 聡志・藤江 康彦(編)	6-7, 116, 296-297
2	中村 正	治療的司法の実践-更生を見据えた刑事弁護のために	分担執筆	2018年10月	第一法規	指宿信監修・治療的司法研究会編著	1-41, 349-366, 444-463
3	中村 正	“教育から学習への転換”のその先へ-Unlearningを焦点に大学教育を構想する-	共著	2019年3月	文理閣	景井充、杉野幹人	84-151
4	村本 邦子	質的心理学辞典(「エンパワーメント」の項目)	分担執筆	2018年11月	新曜社	能智正博編集代表	32-33
5	村本 邦子	メンタルヘルスの道案内-現代を生きる30章(17章被害者)	共著	2018年12月	北大路書房	徳田完二・竹内健児・吉沅洪	112-117
6	増田 梨花	絵本的魔力	単著	2018年5月	中国人民大学出版社		
7	増田 梨花	増補版 絵本を用いた臨床心理面接法に関する研究	単著	2018年6月	晃洋書房		
8	増田 梨花	絵本とともに学ぶ発達と教育の心理学	単著	2018年12月	晃洋書房		
9	増田 梨花	メンタルヘルスの道案内	共著	2019年1月	北大路出版	徳田寛二、竹内健児	
10	吉 沅洪	メンタルヘルスの道案内-現代を生きる30章-	編著	2018年12月	北大路書房	徳田完二、竹内健児	
11	仲 真紀子	子どもの司法面接 児童心理学の進歩 2018年版	単独	2018年	金子書房		25-50

12	森久 智江	「司法と福祉の連携」の展開と課題	共編著	2018年5月	現代人文社	刑事司法研究会 編／土井政和・正木祐史・水藤昌彦・森久智江編著	47-71, 433-500
13	松本 克美	民法(債権法)改正と不動産取引の実務	共著	2018年5月	日本加除出版	鎌野邦樹他	111-124
14	安田 裕子	対話を起こし、プロセス理解を支援、振り返りを促進する一質的アプローチのいかされ方(中坪史典(編), 質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする一保育者が育ち合うツールとしてのKJ法とTEM)	共著	2018年5月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ	211-221
15	安田 裕子	本書を読み終えたみなさんへ(中坪史典(編), 質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする一保育者が育ち合うツールとしてのKJ法とTEM)	共著	2018年5月	ミネルヴァ書房	安田裕子	237-241
16	安田 裕子	社会実装、生殖(リプロダクション)、TEA(複線経路等至性アプローチ)、トランスビュー、妊娠・出産、発生の三層モデル、犯罪被害者、歴史的構造化ご招待(能智正博・香川秀太・川島大輔・サトウタツヤ・柴山真琴・鈴木聡志・藤江康彦(編), 質的心理学辞典)	単独	2018年11月	新曜社		145-146, 176, 207-208, 227, 238, 249, 256, 326
17	安田 裕子	心の生涯発達(徳)	単独	2019年1月	北大路書房		16-21

		田完二・竹内健 児・吉沅洪（編）、 メンタルヘルスの 道案内—現代を生 きる 30 章）					
18	安田 裕子	不妊とストレス （徳田完二・竹内 健児・吉沅洪 （編）、メンタルヘ ルスの道案内—現 代を生きる 30 章）	単独	2019 年 1 月	北大路書房		88-89
19	山崎 優子	松田幸弘（編）心理 学概論—ヒューマ ンサイエンスへの 招待・法律の心理 学（第 10 章）	分担執 筆	2018 年 11 月	ナカニシヤ出版		129-144
20	山浦 一保	「経営・ビジネス 心理学」第 1 章 リ ーダーシップ	共著	2018 年 4 月	ナカニシヤ出版	松田幸弘（編著）、 他章 池田浩・太 田さつき・松本友 一郎・田中芳幸・ 大森哲至・小川悦 史・長野光朗・前 田洋光・中川由 理・武村幸祐・長 谷川千洋	1-15
21	サトウタツ ヤ	対話を起こし、プ ロセス理解を支 え、振り返りを促 進する—質的アプ ローチのいかされ 方（中坪史典 （編）、質的アプロ ーチが拓く 「協働 型」園内研修をデ ザインする—保育 者が育ち合うツ ールとしての KJ 法と TEM）	共著	2018 年 5 月	ミネルヴァ書店	安田裕子	211-221
22	サトウタツ ヤ	本書を読み終えた みなさんへ（中坪 史典（編）、質的ア プローチが拓く 「協働型」園内研 修をデザインする —保育者が育ち合 うツールとしての	共著	2018 年 5 月	ミネルヴァ書店	安田裕子	237-241

		KJ 法と TEM)					
23	サトウタツ ヤ	質的心理学辞典	編著	2018年11月	新曜社	能智正博・香川秀 太・川島大輔・柴 山真琴・鈴木聡志 (編集)	
24	サトウタツ ヤ	文化心理学	共編著	2019年3月	ちとせプレス	木戸彩恵	
25	サトウタツ ヤ	文化心理学の歴史 木戸彩恵・サトウ タツヤ (編)『文化 心理学』	単著	2019年3月	ちとせプレス		15-26
26	サトウタツ ヤ	記号という考え方 木戸彩恵・サトウ タツヤ (編)『文化 心理学』	単著	2019年3月	ちとせプレス		27-39
27	サトウタツ ヤ	時間と記号 木戸 彩恵・サトウタツ ヤ (編)『文化心理 学』	単著	2019年3月	ちとせプレス		41-51
28	北出 慶子	日本語教師養成講 座 ユーキャン(U- CAN) テキスト2 「言語と社会・言 語と心理」の「言 語と心理」執筆	分担執 筆	2018年8月	U-CAN	三代純平 (監修)	78-140
29	山口 洋典	「海外から見た日 本の市民活動つ て?」『京都発NPO 最善戦: 共生と包 摂の社会へ』	分担執 筆	2018年6月	京都新聞出版センター		63-65
30	山口 洋典	「べき、と、であ る、を結ぶ。 :目 標と現状の整合に よる力量の向上の ために」『アート NPO データバンク 2018-19: 実践編! アートの現場から うまれた評価』	分担執 筆	2019年2月	アートNPOリンク		133-146
31	岡本 尚子	算数科教育	共編著	2018年10月	ミネルヴァ書房	二澤善紀・月岡卓 也・口分田政史・ 渡邊伸樹・黒田恭 史・竹歳賢一・佐 伯昭彦	i-ii, 1-12, 13-22, 23-35, 161- 173
32	三田村 仰	カウンセリングに おけるアセスメン	共訳	2018年9月	金子書房		

		トの原理と適用 [第4版] スーザン・C. ウィストン (著) 石川信一・佐藤寛・高橋史 (監訳)					
33	三田村 仰	メンタルヘルスの道案内: 現代を生きる 30 章 (三田村仰担当: 分担執筆, 範囲: 23 章 社会的スキルとアサーション, p. 154-159; 24 章 感情を調節する, p. 160-165; Topic-8 マインドフルネス, p. 202-203)	分担執筆	2019 年 1 月	北大路書房	徳田完二・竹内健児・吉元洪(編)	
34	澤野 美智子	医療人類学を学ぶための 60 冊——医療を通して「当たり前」を問い直そう	編著	2018 年 4 月	明石書店		
35	澤野 美智子	田中雅一・松嶋健(編)『トラウマを生きる』第 9 章「トラウマ化された病い—韓国社会におけるがん・乳がんをめぐる事例から」		2018 年 11 月	京都大学学術出版会		269-302
36	澤野 美智子	能智正博編『質的心理学辞典』の「マリノフスキー」項	分担執筆	2018 年 11 月	新曜社		297-298
37	澤野 美智子	能智正博編『質的心理学辞典』の「レヴィ=ストロース」項	分担執筆	2018 年 11 月	新曜社		324-325
38	澤野 美智子	能智正博編『質的心理学辞典』の「参与観察」項	分担執筆	2018 年 11 月	新曜社		122
39	澤野 美智子	정향진 편저『한국 가족과 친족의 인류학—이론·쟁점·변화』	単独	2018 年 12 月	서울대학교출판문화원		245-276

		제8장 「계보와 친밀성 사이」					
40	澤野 美智子	安井大輔編『フードスタディーズ・ガイドブック』の「第I章 食と文化・社会」冒頭文	共著	2019年3月	ナカニシヤ出版	安井大輔	2-10
41	澤野 美智子	安井大輔編『フードスタディーズ・ガイドブック』の「メアリ・ダグラス『汚穢と禁忌』」	単独	2019年3月	ナカニシヤ出版		22-25
42	澤野 美智子	安井大輔編『フードスタディーズ・ガイドブック』の「マーヴィン・ハリス『食と文化の謎』」	単独	2019年3月	ナカニシヤ出版		26-29
43	澤野 美智子	安井大輔編『フードスタディーズ・ガイドブック』の「西村大志編著『夜食の文化誌』」	単独	2019年3月	ナカニシヤ出版		160-164
44	土田 宣明	自己制御の発達と支援 第5章 壮年期以降の自己制御の発達と支援	分担執筆	2018年9月	金子書房		53-64
45	土田 宣明	運動抑制に影響する要因の年齢差—エラーの原因は若年者と高齢者で異なるのか?—	単著	2019年3月	科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書, 科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書		
46	松田 亮三	Health System in Japan. In: van Ginneken E., Busse R. (eds) Health Care Systems and Policies. Health Services Research.	分担執筆	2018年7月	Springer, New York		https://doi.org/10.1007/978-1-4614-6419-8_12-1
47	竹内 謙彰	保育・教育に生かすOrigamiの認知心理学	共著	2018年11月	金子書房	丸山真名美・梶田正巳・杉村伸一郎・山中和人	77-84
48	松原 洋子	『生命倫理のレポート・論文を書』	共編著	2018年4月	東京大学出版会	伊吹友秀	

		く』					
49	松原 洋子	「引揚者医療救護における組織的人工妊娠中絶—優生保護法前史」, 坪井秀人編『戦後日本を読みかえる 4 ジェンダーと生政治』	分担執筆	2019年3月	臨川書店		35-77
50	松原 洋子	「コラム1 科学をグローバルヒストリーで捉えなおす」, 山下範久編『教養としての世界史の学び方』	分担執筆	2019年3月	東洋経済新報社		401-407
51	岸 政彦	はじめての沖縄	単著	2018年5月	新曜社		
52	岸 政彦	マンゴーと手榴弾	単著	2018年10月	勁草書房		
53	岸 政彦	社会学はどこから来てどこへ行くのか	共著	2018年11月	有斐閣	北田暁大・筒井淳也・稲葉振一郎	
54	岡本 直子	質的心理学小辞典	分担執筆	2018年10月	新曜社		
55	服部 雅史	演繹的推論, ウェイソン選択課題	分担執筆	2018年6月	朝倉書店・基礎心理学実験法ハンドブック	坂上貴之・河原純一郎・木村英司・三浦佳世・行場次朗・石金浩史編	262-263, 266-267
56	北岡 明佳	基礎心理学実験法ハンドブック (分担執筆部分のタイトル) 錯視デザインからのアプローチ	分担執筆	2018年6月	朝倉書店		186-187
57	北岡 明佳	Visual phantom illusion as an integrative product of early visual processing and higher-order perceptual organization. in James M. Brown (Ed.), Pioneer visual neuroscience: A Festschrift for	分担執筆	2019年1月	New York: Routledge	Gyoba, J., and Sakurai, K.,	57-71

		Naomi Weisstein					
58	廣井 亮一	司法臨床の実践と 治療的司法への展 開	共著	2018年10月	第一法規	指宿信、他16名	329-348
59	廣井 亮一	公認心理のための 説明実践の心理学	共著	2018年11月	ナカニシヤ出版	山本博樹、他15 名	141-151
60	廣井 亮一	質的心理学辞典	分担執 筆	2018年11月	新曜社	能智正博。他252 名	50, 255, 256, 260
61	廣井 亮一	メンタルヘルスの 道案内	共著	2018年12月	北大路書房	徳田完二、他16 名	106-111
62	廣井 亮一	家族心理学ハンド ブック	分担執 筆	2019年1月	金子書房	大熊保彦、他55 名	385-392
63	廣井 亮一	心理職・援助職の ための法と臨床— —家族・学校・職 場を支える基礎知 識	共著	2019年2月	有斐閣	中川利彦、児島達 美、水町勇一郎	1-172
64	山本 博樹	チーム学校での効 果的な援助—学校 心理学の最前線—	分担執 筆	2018年8月	ナカニシヤ出版	水野治久・家近早 苗・石隈利紀 (編)	児童生徒の学習支援—教材研究 の視点から—
65	山本 博樹	公認心理師のため の説明実践の心理 学	編著	2018年11月	ナカニシヤ出版		文書説明の有効性
66	宇都宮 博	世代継承性研究の 展望 (担当: 高齢 期・定年退職期の 世代継承性)	分担執 筆	2018年10月	ナカニシヤ出版	岡本祐子・上手由 香・高野恵代(編)	133-175
67	宇都宮 博	家族心理学ハンド ブック (担当: 中 年期・老年期)	分担執 筆	2019年1月	金子書房	日本家族心理学 会(編)	123-129
68	荒木 寿友	「コンピテンシー の育成と人格の形 成—道徳のコンピテ ンシーから導かれ る<道徳性>の再 定義」『深い学びを 紡ぎ出す—教科と 子どもの視点か ら』	共著	2019年1月	勁草書房	グループ・ディダ クティカ	78-96
69	丸山 里美	Living on the Streets in Japan: Homeless Women Break their Silence	単著	2019年1月	Trans Pacific Press		
70	丸山 里美	「近代家族の特質 と女性の隠れた貧	共著	2019年3月	明石書店	松本伊智朗・湯澤 直美編	150-171

		困『生まれ、育つ 基盤——子どもの 貧困と家族・社 会』					
--	--	---------------------------------------	--	--	--	--	--

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	稲葉 光行	Constructing Multicultural Learning Environment and Collaborative Serious Games in Metaverse	共著	2018年8月	Replaying Japan 2018 Conference Book	Juhyung SHIN & Yehang JIANG,	17-19	
2	稲葉 光行	Grounded text mining approach (GTxA): An integration of grounded theory and crossover mixed analyses	共著	2018年8月	MMIRA 2018 Book of Abstracts	Hisako KAKAI	94-95	
3	中村 正	暴力は多様な顔をして関係性に宿ることを読み解く	単著	2018年4月	家族療法研究(35巻1号)		59-64	
4	中村 正	臨床社会学の方法 (21)生活世界-街の人びとの生きられた世界-	単著	2018年6月	対人援助学マガジン(9巻1号)		22-31	
5	中村 正	妄想=暴走する男たち-ハラスメントの要の位置にある男性性ジェンダー	単著	2018年9月	臨床心理学(18巻5号)		561-565	
6	中村 正	臨床社会学の方法 (22)暴力の遍在と意識化	単著	2018年9月	対人援助学マガジン(9巻2号)		23-32	
7	中村 正	つながりすぎないこと	単著	2018年10月	青少年問題(65巻秋季(第672)号)		2-9	
8	中村 正	治療的司法・正義の理論のために-ケアとジャスティスの統合をとおした問題解決のための理論・実践・制度	単著	2018年10月	法と心理(18巻1号)		1-3、6-13	
9	中村 正	親しい関係性にやどる暴力について - DVを中心に-	単著	2018年12月	人権と部落問題(70巻12号)		38-45	

10	中村 正	臨床社会学の方法 (23)暴力を認めるが 加害を認めない人々 との対話	単著	2018 年 12 月	対人援助学マガジン(9 卷 3 号)		21-30	
11	中村 正	暴力の遍在と偏在— その男の暴力なの か、それとも男たち の暴力性なのか—	単著	2019 年 2 月	現代思想(47 卷 2 号)		64-76	
12	中村 正	臨床社会学の方法 (24)暴力を乗り越え る	単著	2019 年 3 月	対人援助学マガジン(9 卷 4 号)		20-29	
13	大谷 いづ み	「現代医学における 「死の選択」が問い かけるもの」	単著	2018 年 10 月	『大法輪』(85 卷 10 号)		135-142	
14	大谷 いづ み	「ハンドル形電動車 いす利用者をめぐる 実態と法制度——日 本・ドイツ・韓国を 中心に」	共著	2019 年 1 月	『立命館人間科学研究』 (38ji 号)	川端美季	91-100	
15	村本 邦子	周辺からの記憶 19 : 2015 年夏の福島で	単著	2018 年 6 月	対人援助学マガジン(9 卷 1 号)		178-197	
16	村本 邦子	周辺からの記憶 20 : 2015 年むつ・多賀 城・福島	単著	2018 年 9 月	対人援助学マガジン(9 卷 2 号)		174-203	
17	村本 邦子	周辺からの記憶 21 : 2015 年福島	単著	2018 年 12 月	対人援助学マガジン(9 卷 3 号)		141-152	
18	村本 邦子	周辺からの記憶 22 : 未来のための思い出 ココロかさなるプロ ジェクト	単著	2019 年 3 月	対人援助学マガジン(9 卷 4 号)		168-178	
19	吉 沅洪	The Physical Environment for Play Therapy with Chinese Children	共著	2018 年	American Journal of Play(10 卷 3 号)	Yih-Jiun Shen, Sylvia Z. Ramirez, Peter L. Kranz, Xinhua Tao	328-358	
20	仲 真紀子	子どもへの司法面接 —日本の現状と課題—	単著	2018 年	児童青年精神医学とその近接 領域(59 卷 2 号)		159-166	
21	仲 真紀子	司法面接の基礎と展 開(上) —参考人や 被疑者の取調べにお ける心理学的技術の 応用—	単著	2018 年	警察學論集(71 卷 8 号)		110-123	
22	仲 真紀子	司法面接の基礎と展 開(中) —参考人や 被疑者の取調べにお	単著	2018 年	警察學論集(71 卷 9 号)		120-138	

		ける心理学的技術の 応用一						
23	仲 真紀子	司法面接の基礎と展 開（下）一参考人や 被疑者の取調べにお ける心理学的技術の 応用一	単著	2018年	警察學論集(71巻10号)		84-100	
24	仲 真紀子	捜査面接において被 面接者から真実の供 述を得るための捜査 員の方略	共著	2018年	法科学技術学会誌(23巻1号)	山本渉太・渋谷友 祐・岩見広一	45-55	
25	仲 真紀子	70周年シンポジウム 第2部「隣接分野と 法社会学の対話. 法 と人間科学の歩み	単著	2018年	法社会学(84巻)		96-115	
26	仲 真紀子	岡田強志（企画）第 11分科会. 現状と課 題司法面接の実務と 課題；司法面接の概 要	共著	2018年	司法福祉学研究(18巻)	岡田強志	168-169.	
27	仲 真紀子	事情聴取における聴 取者の発問タイプと 被聴取者から得られ る情報量の関連	共著	2019年	立命館人間科学研究(38巻)	山本渉太・山元修 一・渋谷友祐	47-57.	
28	仲 真紀子	子どもの司法面接・ 協同面接の現状と課 題	単著	2019年	社会安全・警察学(5巻)		33-40	
29	仲 真紀子	司法における多専 門・多職種連携と心 理学—外国人被告人 の心理査定—	共著	2019年	法と心理(18巻1号)	赤嶺亜紀・田中周 子・田中晶子・柴 田勝之・尾崎友里 加	56-62	
30	森久 智江	刑事司法に関与した 人のアセスメント/ マネジメントのあり 方—その人の「生き る」の支援のために	単著	2018年5月	刑事司法研究会編／土井政 和・正木祐史・水藤昌彦・森 久智江編著『「司法と福祉の 連携」の展開と課題』現代人 文社		47-71	
31	森久 智江	地域生活定着支援セ ンター全国調査結果 について	単著	2018年5月	刑事司法研究会編／土井政 和・正木祐史・水藤昌彦・森 久智江編著『「司法と福祉の 連携」の展開と課題』現代人 文社		433-478	
32	森久 智江	地域生活定着支援セ ンターの課題と今後	単著	2018年5月	刑事司法研究会編／土井政 和・正木祐史・水藤昌彦・森 久智江編著『「司法と福祉の 連携」の展開と課題』現代人 文社		479-500	

33	松本 克美	宅建業法に基づき供託された営業保証金の取戻請求権の消滅時効起算点	単著	2018年4月	新判例解説 Watch(22号)		93-96	
34	松本 克美	民法改正と建築瑕疵責任	単著	2018年4月	消費者法ニュース(115号)		153-155	
35	松本 克美	契約内容不適合責任と消費者一建築瑕疵責任事例を中心に	単著	2018年6月	現代消費者法(39号)		54-60	
36	松本 克美	「不法行為による潜在型損害の長期消滅時効の起算点—民法724条の『不法行為の時』と『損害の性質』論」	単著	2018年8月	立命館法学(378巻)		788-810	
37	松本 克美	「製品の『欠陥』『瑕疵』」	単著	2018年9月	消費者法研究(5巻)		111-132	
38	安田 裕子	質的データの可視化支援ツール「NARREX」の開発—KJ法経由のTEMとそれをサポートする方法について	共著	2019年1月	立命館人間科学研究(38号)	斎藤進也・隅本雅友・菅井育子・サトウタツヤ	111-120	
39	林 勇吾	The power of a “Maverick” in collaborative problem solving: An experimental investigation of individual perspective taking within a group	単著	2018年5月	Cognitive Science(42巻S1号)		69-104	
40	林 勇吾	Gaze Feedback and Pedagogical Suggestions in Collaborative Learning: Investigation of Explanation Performance on Self's Concept in a Knowledge Integration Task	単著	2018年6月	Proceeding of the 14th International Conference on Intelligent Tutoring Systems(ITS2018), Lecture Notes in Computer Science, Springer-Verlag		78-87	
41	林 勇吾	Towards a Pedagogical Conversational	単著	2018年7月	Proceedings of the 40th Annual Conference of the Cognitive Science		471-476	

		Agent for Collaborative Learning: A Model Based on Gaze Recurrence and Information Overlap			Society (CogSci2018)			
42	林 勇吾	The influence of task activity and the learner's personal characteristics on self-confidence during an online explanation activity with a conversational agent	共著	2018年7月	Proceedings of the 11th International Conference on Educational Data Mining (EDM2018)	Takeuchi, Y.	286-291	
43	林 勇吾	私のブックマーク「知的学習支援システム (Intelligent Tutoring Systems)」	単著	2018年7月	人工知能(33巻4号)		527-530	
44	林 勇吾	Using decision support systems for juries in court: Comparing the use of real and CG robots	共著	2019年3月	Proceedings of the 14th Annual ACM/IEEE International Conference on Human Robot Interaction (HRI2019)	Wakabayashi, K. Shimojyo, S. Kida, Y.	556-557	
45	林 勇吾	A preliminary study on the use of emotional recurrence analysis to identify coordination in collaborative learning	単著	2019年3月	Proceedings of the 24th Annual ACM International Conference on Intelligent User Interfaces (IUI2019)		5-6	
46	若林 宏輔	法律実務家のための心理学入門 第5回 取調べの可視化と心理学	単著	2018年6月	季刊刑事弁護, (95巻)		138-143	
47	若林 宏輔	法律実務家のための心理学入門 第6回 司法取引と心理学	単著	2018年10月	季刊刑事弁護(96巻)		98-102	

48	若林 宏輔	取調べ録画動画の提示方法が自白の任意性判断に及ぼす影響—日本独自の画面同時提示方式と撮影焦点の観点から	共著	2018 年 10 月	法と心理(18 卷)	中田友貴・サトウ タツヤ	70-85	
49	若林 宏輔	法律実務家のための心理学入門 第7回 市民と犯罪に関する認識の心理学	単著	2019 年 1 月	季刊刑事弁護(96 卷)		98-102	
50	金 成恩	改革がすすまない3つの課題と人権に対する市民意識—研究と教育のアプローチの可能性について	共著	2018 年 10 月	法と心理(18 卷 1 号)	山田早紀・山崎優子・相澤育郎・二宮周平・花本広志	63-69	
51	金 成恩	Limitations to judicial dispute resolution and collaborative research between law and psychology	共著	2018 年 10 月	法理論実務研究, 韓国法理論実務学会(6 卷 3 号)	呉貞勇	327-344	
52	金 成恩	韓国憲法裁判所の憲法不合法決定と嫡出否認権・嫡出推定に関する法改正	単著	2018 年 12 月	ジェンダー法学(5号)		1-28	
53	金 成恩	韓国における子の氏の決定ルール—ジェンダーの視点からの検討—	単著	2018 年 12 月	ジェンダー法学(5号)		77-95	
54	山崎 優子	模擬裁判への参加を通じた法育の効果と今後の課題	単著	2018 年 6 月	日本法育研究(2 号)		61-71	
55	山崎 優子	改革がすすまない3つの課題と人権に対する市民意識—研究と教育のアプローチの可能性について	共著	2018 年 10 月	法と心理(18 卷 1 号)	山田早紀・相澤育郎・金成恩・二宮周平・花本広志	63-69	
56	山崎 優子	2017 年度 ひらめき☆ときめきサイエンス「模擬法廷に来て裁判に参加してみよう」実践と論考	共著	2019 年 1 月	立命館人間科学研究(38 号)	上村晃弘・相澤育郎	101-109	
57	山崎 優子	触法精神障害者医療に対する市民意識	共著	2019 年 3 月	立命館人間科学研究(39 卷)	山田直子	13-24	
58	矢藤 優子	Development and Relationship	共著	2018 年 7 月	Asia Pacific Journal of Advanced Business and	Shohei Hirose, Philippe Wallon,	138 - 147	

		Between Performance and the Drawing Process on the Bender-Gestalt Test as Analyzed Using the Digital Pen			Social Studies (APJABSS) (4 巻2号)	Claude Mesmin & Matthieu Jobert		
59	矢藤 優子	d2 - R Test for Japanese Adolescents: Concurrent Validity with ADHD - RS	共著	2018 年 11 月	Pediatrics International (61 巻)	Shohei Hirose, Philippe Wallon, Claude Mesmin, Matthieu Jobert	43-48	
60	矢藤 優子	The relationship between the development of social competence and sleep in infants: a longitudinal study	共著	2018 年 12 月	Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health	Etsuko Tomisaki, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe, Ryoji Shinohara, Maki Hirano, Yoko Onda, Yukiko Mochizuki, Noriko Yamakawa, Tokie Anne and the Japan Children' s Study Group	12:53	
61	堀江 未来	異文化体験を通じた学びと異文化感受性の発達	単著	2018 年 4 月	ITL News (41 巻)			
62	堀江 未来	International Students' Recruitment in Japan	共著	2018 年 8 月	Internationalization of Higher Education: A Handbook (2 巻)	Emiko Katsu	95-113	
63	美馬 達哉	DSM 的理性とその不満	単著	2018 年	保健医療社会学論集 (28 巻 2 号)		54-64	
64	サトウタツヤ	マーガレット・ナムブルグ 心理学史の中の女性たち第 7 回	単著	2018 年 4 月	心理学ワールド (81 号)		29	
65	サトウタツヤ	文化と記号と心理学	その他	2018 年 6 月	対人援助学マガジン (33 号)		108-117	
66	サトウタツヤ	Wilhelm Wundt in Sendai " - Zur Geschichte der Psychologie in	共著	2018 年 7 月	Psychologische Rundschau (69 巻)	Uwe Wolfradt	169-169	

		Japan						
67	サトウタツヤ	ボランティアと連携した学級復帰の支援体制づくり——全日制単位制高校におけるフィールドワーク	共著	2018年9月	教育心理学研究(66巻)	神崎真実	241-258	
68	サトウタツヤ	国際心理学会の提唱者オコロピッツ(ポーランド)	単著	2018年10月	心理学ワールド(83号)		29	
69	サトウタツヤ	取調べ録画動画の提示方法が自白の任意性判断に及ぼす影響 —日本独自の二画面同時提示方式と撮影焦点の観点から—	共著	2018年10月	法と心理(18巻)	中田友貴・若林宏輔	70-85	
70	サトウタツヤ	ナラティブの意義と可能性	単著	2018年12月	言語文化教育研究(16巻)		2-11	
71	サトウタツヤ	質的データの可視化支援ツール「NARREX」の開発—KJ法経由のTEMとそれをサポートする方法について	共著	2019年1月	立命館人間科学研究(38巻)	斎藤進也・安田裕子・隅本雅友・菅井育子	111-120	
72	サトウタツヤ	万歳三唱令 文書流言か文化創造か 対人援助学&心理学の縦横無尽 (24)	単著	2019年3月	対人援助学マガジン(36号)		113-118	
73	北出 慶子	ナラティブの可能性 —語りの社会的意義—	共著	2019年2月	言語文化教育研究(16巻)	三代純平・嶋津百代	1	
74	斎藤 進也	「コミッチケーション」によるソーシャルログの視覚化と共有 —「トイレ型UI」の設計と実装を通じて—	共著	2018年	アート・リサーチ(18巻)	中島理紗		
75	斎藤 進也	質的データの可視化支援ツール「NARREX」の開発 —KJ法経由のTEMとそれをサポートする方法について—	共著	2019年1月	立命館人間科学研究 第38号(38号)	安田裕子、隅本雅友、菅井育子、サトウタツヤ	111-119	
76	斎藤 進也	データ閲覧支援のためのターンテーブル型UIの開発 —「ゲ	共著	2019年3月	Replaying Japan(1巻)	福田一史、飯田和敏	136-143	

		ーミングビジュアル ライゼーション」の観 点からー						
77	斎藤 進也	VR タイムライン・シ ステム「縁起空間」 の設計と社会実装ビ ジョン ーアーカイ ブの可視化からエン ターテインメント活 用までー	単著	2019年3月	アート・リサーチ(19巻)		41-50	
78	斎藤 進也	「コミュニティ・ゲ ーム」のための情報 基盤の構築とその運 用 ー地域情報で創 る次世代エンターテ インメントー	単著	2019年3月	地域情報学研究(8巻)		36-50	
79	山口 洋典	PBLの風と土：(5)現 在進行形の問題に向 き合う学びの視点	単著	2018年6月	対人援助学マガジン(9巻1 号)		282-287	
80	山口 洋典	学びのコミュニテ ィ：プロブレム・ベ ースド・ラーニング	単著	2018年7月	2017年度「コミュニティ・デ ザイン論研究」レクチャー・ ドキュメント「社会の構造的 問題へ多分野の知でアプロー チする」(大阪ガスCEL)(8 巻)		1-5	
81	山口 洋典	PBLの風と土：(6)学 びの場のプロセスを デザインする戦略	単著	2018年9月	対人援助学マガジン(9巻2 号)		278-283	
82	山口 洋典	Communication- design for Disaster Risks through Shopping at a Large-scale Shopping Center: Transition from Disaster Prevention to Disaster Mitigation	共著	2018年11 月	Journal of Integrated Disaster Risk Management(8 巻1号)	Naoko Horie	22-45	
83	山口 洋典	The generative power of metaphor: long-term action research on disaster recovery in a small Japanese village.	共著	2018年11 月	Disasters	ATSUMI Tomohide and SEKI Yoshihiro		

84	山口 洋典	PBLの風と土：(7)どのように問題を設定するかという問題	単著	2018年12月	対人援助学マガジン(9巻3号)		223-228	
85	山口 洋典	メゾレベルなボランティア学を求めて：特集「主体的な学びを拓くボランティア学」の企画趣旨	共著	2019年2月	ボランティア学研究(19巻)	桑名 恵・阿部 健一・竹端 寛・玉城 直美・福永 敬・高橋 真央	3-6	
86	山口 洋典	参加型学習における問題解決活動と教育実践の相即：立命館大学とデンマーク・オールボー大学との比較研究を通じた理論と方法論の検討	単著	2019年2月	ボランティア学研究(19巻)		7-22	
87	山口 洋典	PBLの風と土：(8)指導の不安と不満で学生を抑えぬように	単著	2019年3月	対人援助学マガジン(9巻4号)		240-245	
88	山口 洋典	メタファーを通じた災害復興支援における越境的対話の促進——新潟県小千谷市塩谷集落・復興10年のアクションリサーチから	共著	2019年3月	質的心理学研究(18巻)	渥美公秀・関嘉寛	124-142	
89	中鹿 直樹	障害のある生徒を対象とした大学内模擬喫茶店舗における職場実習	共著	2019年2月	対人援助学研究(8巻)	中鹿直樹・尾西洋平・小島 遼・土田菜穂・望月 昭	14-23	
90	三田村 仰	Developing the functional assertiveness scale: Measuring dimensions of objective effectiveness and pragmatic politeness	単著	2018年	Japanese Psychological Research			
91	三田村 仰	Examining U.S. and Japanese college students' differences in psychological distress: The mediating roles of valued action and	共著	2018年	International Journal for the Advancement of Counselling.	Drake, C. E., Masuda, A., Dalsky, D., Stevens, K. T., Kramer, S., Primeaux, S. J., & Muto, T.,		

		experiential avoidance.						
92	三田村 仰	Case study of clinical behavior analysis for a 20-year-old client with emetophobia	単著	2019年	Clinical Case Studies			
93	澤野 美智子	序——医療人類学における「理想」のナラティブと現実の間	単著	2018年6月	Contact Zone(10巻)		107-117	
94	澤野 美智子	特集・医療人類学にとってナラティブとは何か?——はじめに	共著	2018年6月	Contact Zone(10巻)	田中 雅一	105-106	
95	澤野 美智子	現代韓国社会における医療の構図——がん治療をめぐる事例から	単著	2018年10月	韓国朝鮮の文化と社会(17巻)		41-73	
96	澤野 美智子	書評 本田洋著『韓国農村社会の歴史民俗誌——産業化過程でのフィールドワーク再考』	単独	2018年12月	文化人類学(83巻3号)		490-492	
97	神崎 真実	ボランティアを活用した学級復帰の支援体制づくり——全日制単位制高校におけるフィールドワーク——	共著	2018年10月	教育心理学研究(66巻3号)	サトウタツヤ	241-258	
98	土田 宣明	Effect of aging on processes of motor inhibition	共著	2018年4月	Japanese Psychological Research(60巻2号)	Kawakami, M.	111-118	有
99	土田 宣明	実行機能検査(EFE)の開発:信頼性,妥当性の検証および効果測定ツールとしての適用可能性の検討	共著	2018年8月	老年精神医学雑誌(29巻8号)	神田尚・大川一郎・吉田甫	855-862	
100	松田 亮三	医療福祉政策研究への多様なアプローチ——特集にあたって	単著	2019年3月	医療福祉政策研究(2巻1号)		1-2	
101	松田 亮三	医療福祉政策研究への多様な接近——展望	単著	2019年3月	医療福祉政策研究(2巻1号)		3-14	
102	松田 亮三	書評:田宮菜奈子・小林廉毅編『ヘルスサービスリサーチ入門』	単著	2019年3月	医療福祉政策研究(2巻1号)		137-138	

103	松田 亮三	刑事収容施設における医療アクセス・質保証に向けてー 医療政策・機構研究からの検討ー	単著	2019年3月	立命館産業社会論集(54巻4号)			
104	山本 耕平	日本の福祉制度における若者福祉の位相ー地域若者実践の哲学・課題を中心にー	単著	2018年11月	2018年第4回自活福祉国際シンポジウム報告集		71-84	
105	山本 耕平	日本の青年支援制度における課題について	単著	2018年11月	2018国際青年保障フォーラム		12-21	
106	竹内 謙彰	学童期に獲得される計画性とはいかなる能力か?ー心理測定的知能と実践的能力の二つの視点からー	単著	2018年9月	立命館産業社会論集(54巻2号)		75-84	
107	津止 正敏	変わる介護と家族	単著	2018年4月	京都新聞(朝刊)		7	
108	津止 正敏	連載「男たちの介護」	共著	2018年4月	佼成新聞(第2823号)		1	
109	津止 正敏	仕事と介護の両立を考えるー「ながら」介護の実態からー	単著	2018年5月	季刊個人金融(Vol.13巻No.1号)		44-52	
110	津止 正敏	男性の介護労働ー男性介護者の介護実態と支援課題	単著	2018年10月	日本労働研究雑誌(第699号)		40-51	
111	津止 正敏	コラム「男の介護」(10月ー12月)	単著	2018年10月	週刊金曜日(1224号)		46	
112	野田 正人	児童自立支援施設におけるアセスメントについて	単著	2018年8月	中国児協 中国地区児童自立支援施設協議会(2016巻)			
113	野田 正人	スクールソーシャルワーカーの「福祉に関する支援」から	単著	2018年8月	子どもの心と学校臨床(19号)		33-42	
114	松原 洋子	「方法論としての科学史を活かした大学院教育:学際的大学院における院生指導の実践から」	単著	2018年4月	『科学史研究』(57巻)		47-48	
115	松原 洋子	「優生保護法の歴史が問いかけるもの」	単著	2018年6月	『診療研究』(538号)		15-19	
116	松原 洋子	「強制不妊手術問題と公文書管理」	単著	2018年6月	『現代思想』(46巻10号)		85-94	
117	松原 洋子	「生命倫理の歩き方を探るー『生命倫理のレポート・論文を	単著	2018年7月	UP(549号)		1-4	

		書く』刊行に寄せて						
118	松原 洋子	「優生保護法の土台となった「優生学」とは-立命館大学松原洋子教授に聞く」(インタビュー)	その他	2018 年 11 月	『民医連医療』(555号)		34-37	
119	岡本 直子	鎖骨呼吸法の効果検証に向けた探索的検討-fNIRS を用いて-	共著	2018 年 12 月	大阪夕陽学園短期大学紀要(61号)	與久田 巖		
120	服部 雅史	洞察問題としての日本語版 Remote Associates Task の作成	共著	2018 年 10 月	心理学研究(89 卷 4 号)	織田涼・西田勇樹	376-386	
121	服部 雅史	人工知能は創造的認知の何を語るか:思考の二重性と合理性に基づく一考察	単著	2018 年 11 月	人工知能(33 卷 6 号)		771-779	
122	北岡 明佳	Blindness to curvature and blindness to illusory curvature	共著	2018 年 5 月	i-Perception(9 卷 3 号)	Bertamini, M.	1-11	
123	山本 博樹	高校初年次生と大学生の説明文理解に及ぼす標識化効果の境界条件	共著	2018 年 8 月	心理学研究(89 卷 3 号)	織田 涼・島田英昭	240-250	
124	藤本 学	応用演劇によるホームレス就労自立支援の実践と成果	共著	2018 年 10 月	九州産業大学地域共創学会誌(創刊号巻)	古賀弥生	23-39	
125	荒木 寿友	学習指導要領解説(目標等)に関わる重要用語 3 道徳的価値、道徳的価値観、道徳的価値の自覚 4 道徳的価値の理解(価値理解、人間理解、他者理解) 5 補充、深化、統合	単著	2018 年 11 月	道徳教育 12 月号(726 号)		7-9	
126	渡辺 克典	話せたり話せなかったりすることを支援したりしなかったりすることについて考える	単著	2018 年 5 月	支援(8 卷)	渡辺克典		
127	渡辺 克典	書評/矢吹康夫著『私がアルビノにつ	単著	2018 年 11 月	障害学研究(14 卷)	渡辺克典		

		いて調べ考えて書いた本——当事者から始める社会学』						
128	渡辺 克典	特集趣旨	単著	2019年3月	立命館生存学研究(2巻)	渡辺克典	37-39	
129	渡辺 克典	制度編成とアーカイヴィングメソッド解題	単著	2019年3月	立命館生存学研究(2巻)	渡辺克典	181-182	
130	渡辺 克典	制度編成研究と社会運動メディア・アーカイヴィングの架橋	単著	2019年3月	立命館生存学研究(2巻)	渡辺克典	213-217	
131	丸山里美	韓日における子ども・若者の生活困難状態への路上アウトリーチ —ソウル「動く青少年センター EXIT」の支援実践から—	共著	2018年6月	立命館産業社会論集(54巻2号)	深谷弘和・岡部茜・松岡江里奈・山本耕平	123-136	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	稲葉 光行	Constructing Multicultural Learning Environment and Collaborative Serious Games in Metaverse	2018年8月	Replaying Japan 2018	Juhyung SHIN & Yehang JIANG
2	稲葉 光行	Grounded text mining approach (GTxA): An integration of grounded theory and cross-over mixed analyses	2018年8月	MMIRA (Mixed Methods International Research Association) International Conference 2018	Hisako Kakai
3	稲葉 光行	The Impact of Presentation Media of Suspect's Confessions on the Viewer's Conviction	2018年12月	12th Annual Conference of East Asian Association of Psychology and Law 2018	Yuko Yamasaki & Saki Yamada
4	稲葉 光行	Expectation for "Psychology and Law" in Innocence Efforts	2018年12月	12th Annual Conference of East Asian Association of Psychology and Law 2018	
5	稲葉 光行	子どもを中心としたまちづくりと地域活性化のための実践共同体	2019年1月	立命館大学地域情報研究所プロGRESSレポート	
6	稲葉 光行	Implementing Platforms for Cultural Construction	2019年3月	NII Shonan Meeting "Modelling Cultural Process"	
7	稲葉 光行	Children-centered community development	2019年3月	University-Community Links (UCLinks) Conference 2019	

		through university- community collaboration in Japan			
8	中村 正	加害者臨床とパーソナリテ ィ研究の対話	2018年8月	日本パーソナリティ心理学会第27回 大会	
9	中村 正	性暴力加害者をなくすため の「教育」からみた支援- 「ジャスティスクライエン ト」とともに	2018年9月	第38回日本性科学会学術集会	
10	中村 正	男性性の傷つきに敏感なジ ェンダー臨床論のために (その7)- 脱男性性をめぐ るラビリンス(迷宮)-	2018年11月	対人援助学会第10回大会	國友万裕
11	中村 正	企画ワークショップ III 「被災と復興の証人 (witness) になる」とは どういうことだったか? ～「東日本・家族応援プロ ジェクト」の活動を通して / 「記憶の多様なかたち～ 震災・災害の表象論から」	2018年11月	対人援助学会第10回大会	
12	大谷 いづ み	「死を選ぶ権利」につい て考えておきたいこと」	2019年2月	生存学研究センター公開シンポジウム 「安楽死のリアル——一つではない 「良い死」」	
13	大谷 いづ み	「「問い書き対話するいと なみ」と「障害を持つ女 性」という経験」	2019年2月	2018年度 日本医学哲学・倫理学会 公 開講座「障害のなかで生きること—— 「障害があることは不幸」なのか」	
14	大谷 いづ み	「安楽死・尊厳死論の系譜 と障害者殺傷事件」	2019年3月	韓国障害学会定例会	
15	櫻谷 眞理 子	発達障害が疑われる子ども の特徴と保育の課題	2018年5月	日本保育学会第71回大会	
16	村本 邦子	被災から防災へ、ローカリ ティからネットワークへ～ 『災害時相談対応ハンドブ ック』作成と防災研修の経 験から	2018年11月	第10回対人援助学会	
17	村本 邦子	「被災と復興の証人 (witness) になる」とは どういうことだったか?～ 「東日本・家族応援プロジ ェクト」の活動を通して 「証人になること」と倫理	2018年11月	第10回対人援助学会	
18	村本 邦子	災禍を生き抜く女たち～原 発事故によって避難を強い られたAさんのライフスト ーリー	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	

19	村本 邦子	「土地の力」と災害復興～被災地のエスノグラフィーを通して 山元町復興による民話・伝承の力	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	
20	増田 梨花	高校生のピア・サポートへのイメージ-これまでの「高大連携プロジェクト」を振り返って-	2018年10月	立命館大学 朱雀キャンパス	堀内悠 上田捷悟
21	吉 沅洪	Changes in the Needs and Expectations of Supports for Siblings of People having Disabilities in Japan -In accordance to the developmental stage -	2018年8月	American Psychological Association 2018 Convention	Wei WANG, Tingting CHEN
22	吉 沅洪	The Psychology Behind China's "Left Behind Children" Based on Their Kinetic Family Drawing	2018年8月	American Psychological Association 2018 Convention	
23	吉 沅洪	日本障害児・者きょうだいの援助ニーズと期待するサービスの变化	2018年9月	日本心理臨床学会第37回大会	
24	吉 沅洪	Changes in Needs and Expectations of Support for Siblings of People with Disabilities - A comparative study between Japan and Taiwan	2018年11月	The 3rd Japan-US Science Forum in Boston	
25	吉 沅洪	Quantitative and Qualitative Analyses of Drawing Tests: Development, Personality, and Cultures	2019年3月	International Convention of Psychological Science	
26	吉 沅洪	A study on mental health and assistance of Japanese expatriate staffs	2019年3月	International Convention of Psychological Science	Shanshan MA
27	仲 真紀子	子どものための司法面接第1回 事実調査の難しさ (1) 最小限の心理的負担で被害児童の話を聴く	2018年6月	内外教育	
28	仲 真紀子	子どものための司法面接第2回 事実調査の難しさ (2) 誘導的な面接	2018年7月	内外教育	
29	仲 真紀子	子どものための司法面接第	2018年7月	内外教育	

		3回 事実調査の難しさ (2) 子どもの被暗示性			
30	仲 真紀子	子どものための司法面接第 4回 事実調査の環境と手 続き (1) 面接室と面接者	2018年8月	内外教育	
31	仲 真紀子	子どものための司法面接第 5回 事実調査の環境と手 続き (2) 面接の手續き	2018年8月	内外教育	
32	仲 真紀子	子どものための司法面接第 6回 いじめの話を聞く (1) 面接の約束事	2018年9月	内外教育	
33	仲 真紀子	学校現場における事実確認 の方法	2018年9月	日本教育心理学会	
34	仲 真紀子	子どものための司法面接第 7回 いじめの話を聞く (2) ラポール形成と出来 事を思い出す練習	2018年9月	内外教育	
35	仲 真紀子	Eyewitness Memory and Report for Events: Differences in the Report in the Native Language and the Second Language	2018年9月	日本心理学会第82回大会	Zhengfei HU
36	仲 真紀子	感情の表現と発達-法と心 理・司法面接から-	2018年9月	日本心理学会第82回大会	
37	仲 真紀子	虐待通告を阻む理由：大学 生の意識	2018年9月	日本心理学会第82回大会	
38	仲 真紀子	子どものための司法面接第 8回 いじめの話を聞く (3) ブレーク	2018年10月	内外教育	
39	仲 真紀子	子どものための司法面接第 9回 いじめの話を聞く (4) ブレーク後	2018年10月	内外教育	
40	仲 真紀子	子どものための司法面接第 10回 いじめの話を聞く (5) 外部情報との照合	2018年11月	内外教育	
41	仲 真紀子	子どものための司法面接第 11回 いじめの話を聞く (6) 目撃者から話を聞く	2018年11月	内外教育	
42	仲 真紀子	子どものための司法面接第 12回 いじめの話を聞く (7) 得られた情報のまと め	2018年12月	内外教育	
43	仲 真紀子	An analysis of mock deliberation: Interactions of	2018年12月	East Asian Association for Psychology and Law EAAPL 2018	

		professional and lay judges			
44	仲 真紀子	子どものための司法面接第13回 いじめの話を聞く (8 被疑少年への面接における配慮)	2019年1月	内外教育	
45	仲 真紀子	子どものための司法面接第14回 いじめの話を聞く (9) 面接の計画①	2019年1月	内外教育	
46	仲 真紀子	子どものための司法面接第15回 いじめの話を聞く (10) 面接の計画②	2019年2月	内外教育	
47	仲 真紀子	「司法面接」 子どもから正確な証言を引き出す技術 (1) 学校での事実調査	2019年2月	教育新聞	
48	仲 真紀子	「司法面接」 子どもから正確な証言を引き出す技術 (2) 聴取における大人の問題	2019年2月	教育新聞	
49	仲 真紀子	子どものための司法面接第16回 いじめの話を聞く (11) C夫から話を聞く	2019年2月	内外教育	
50	森久 智江	日本における Restorative Justice の現在地と本プロジェクトができること—修復的社会の編綴に向けて	2018年5月	第28回修復的司法セミナー	
51	森久 智江	「自由刑の単一化」と「再犯防止」—法制審少年法・刑事法部会の議論状況について	2018年5月	日弁連刑事法制委員会勉強会	
52	森久 智江	非行問題の理解と対応	2018年7月	大阪府教育委員会平成30年度学校教育相談課題別選択研修	
53	森久 智江	Japanese New Legislations for Re-offending Prevention and Services for People with Support Needs.	2018年8月	Workshop on Forensic Disability and Social Inclusion.	
54	森久 智江	罪に問われた人の「生きる」の支援のために保護司ができること—生きづらさを抱えた人すべての権利保障に向けて—	2018年8月	茨木市保護司会 2018年度夏季一日研修会	
55	森久 智江	犯罪をした人の「更生」支援と Restorative Justice (RJ) 一人の「生きる」を支えるために—	2018年9月	東京 TS ネット研修会	

56	森久 智江	犯罪をした人が自ら「今ここを生きる」ために—処遇における法的地位・処遇論と心理職による支援のあり方	2018年10月	法と心理学会第19回大会ワークショップ2	相澤育郎、斧原藍、赤津玲子
57	森久 智江	学部初年次教育カリキュラム構築と「対話力」形成—修復的社会的のための迂遠な一歩として	2018年11月	第38回修復的司法セミナー	
58	森久 智江	検討：石塚伸一「教育的処遇（矯正処遇）—被収容者の処遇改革の歴史と主体性の確立—」（本庄武+武内謙治編著『刑罰制度改革の前に考えておくべきこと』（日本評論社、2017）39-59頁）—法制審少年法・刑事法部会における「自由刑単一化」の議論に照らして	2018年11月	刑事立法研究会全体会	
59	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ（TEA）—過程と発生をとらえる質的研究法	2018年8月	日本パーソナリティ心理学会第27回大会	
60	安田 裕子	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編—人間性（人格性）成長の一貫性を前提としたパーソナリティの探求へ向けて	2018年8月	日本パーソナリティ心理学会第27回大会	矢藤優子・サトウタツヤ・岡本尚子・鈴木華子・川本静香・神崎真実・中田友貴・肥後克己・孫怡・妹尾麻美
61	安田 裕子	教育における文化的視点の重要性—Trajectory Equifinality Approach（TEA）による分析	2018年9月	日本教育心理学会第60回総会	榎木史子・豊田香・サトウタツヤ
62	安田 裕子	人の生の歩みとその可能性を拓く—潜在的な分岐を可視化・実現する、文化心理学に依拠する質的方法論 TEA	2018年9月	日本心理学会第82回大会	サトウタツヤ・伊東美智子・北出慶子
63	安田 裕子	TEM（複線径路等至性モデルリング）を学ぶ	2018年9月	日本心理学会第82回大会	サトウタツヤ
64	安田 裕子	虐待を受けた子どもの包括的支援を考える「捜査とケア」二者択一から、両立へ	2018年10月	法と心理学会第19回大会	田中晶子・上宮愛・片岡笑美子・鈴木聡・西部智子・仲真紀子
65	安田 裕子	妊娠期女性の職業キャリア展望	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	妹尾麻美・三品拓人
66	安田 裕子	家庭内において妻が夫に対	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	三品拓人・妹尾麻美

		して担っている「感覚的活動」			
67	安田 裕子	「大学生のやる気はなぜなくなるのか？」複線径路等至性モデリング (TEM) による検討—マツダ株式会社・立命館大学による共同研究「質的研究アナリスト育成プログラムの開発」による体験型プログラム TEM 院生版 PBL からの学び	2018 年 11 月	日本質的心理学会第 15 回大会	田中文昭・張曉紅・浅瀬万里子・土元哲平・神崎真実・菅井育子・隅本雅友・サトウタツヤ
68	安田 裕子	大学生のやる気はなぜなくなるのか？どのようにしてなくならないようにできるのか？—TEA による検討	2018 年 11 月	日本質的心理学会第 15 回大会	岡野雄気・若杉美穂・菱ヶ江恵子・土元哲平・神崎真実・菅井育子・隅本雅友・サトウタツヤ
69	安田 裕子	これからの協同面接の在り方を子どもの視点で考える—子どもが話してよかった経験になるように	2018 年 12 月	日本子ども虐待防止学会第 24 回学術集会おかやま大会	根ヶ山裕子・大谷基恵・飛田桂・上宮愛 (・田中晶子)・久保健二・岩佐嘉彦
70	安田 裕子	TEA (複線径路等至性アプローチ) の可能性—「発達」と「文化」をとらえるということ (講演)	2019 年 3 月	The 1st Transnational Meeting on TEA (第 1 回 TEA 国際学会)	
71	安田 裕子	記念シンポジウム TEA (複線径路等至性アプローチ) が切り開く未来 (司会)	2019 年 3 月	The 1st Transnational Meeting on TEA (第 1 回 TEA 国際学会)	Jaan Valsiner・大川聡子・北出慶子・香曾我部琢・森直久・森岡正芳・滑田明暢・サトウタツヤ
72	安田 裕子	人生径路・発達の複線性と文化をとらえる TEA (複線径路等至性アプローチ) (講習会講師)	2019 年 3 月	The 1st Transnational Meeting on TEA (第 1 回 TEA 国際学会)	福田茉莉
73	安田 裕子	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成	2019 年 3 月	日本発達心理学会第 30 回大会	矢藤優子・孫怡・岡本尚子・川本静香・鈴木華子・板倉昭二
74	林 勇吾	エージェントに対する知性に関する印象形成: 知識量に着目した実験的検討	2018 年 8 月	日本認知科学会第 35 回大会発表論文集	星田雅弘・田村昌彦
75	若林 宏輔	Visualized deliberation: Analyzing by text mining method through the time sequence	2018 年 6 月	Annual Conference of the European association of Psychology and law 2018,	
76	若林 宏輔	「いつも一人いる」人は評議に現れ、そして存在し続けるのか?	2018 年 10 月	第 19 回法と心理学会大会	
77	若林 宏輔	取調録音・録画の心理学的問題点、その対策について	2018 年 10 月	高松地方裁判所刑事鑑定研究会	
78	若林 宏輔	Closing speech for	2018 年 12 月	12th East Asian Law and Psychology	

		the 12th East Asian Law and Psychology conference 2018,		conference	
79	若林 宏輔	「法と対人援助」プロジェクトからの話題提供	2019年2月	2018年度人間科学研究所年次総会・開シンポジウム「人間科学と混合研究法の未来」	
80	若林 宏輔	Using Decision Support Systems for Juries in Court: Comparing the Use of Real and CG robots	2019年3月	Human Robot Interaction 2019 (HRI2019)	Hayashi Y, Shimojo, S. & Kidam Y.
81	金成 恩	A proposal on “truth-telling” support system for donor-conceived families: through the citizen-minded survey in Japan	2018年6月	Annual Conference of the European association of Psychology and law	
82	金成 恩	父子関係の推定とDNA鑑定—法律上の父子関係を考える	2018年10月	法と心理学会第19回学術大会	
83	山崎 優子	The impact of presentation media of suspect’s confessions on the viewer’s conviction	2018年12月	12th East Asian Association of Psychology and Law Annual Conference (EAAPL)	Saki YAMADA., & Mitsuyuki INABA
84	矢藤 優子	The effectiveness of embrace interventions on the mother-child relationship and maternal feelings toward children	2018年5月	International Conference on Psychology & Language Research	
85	矢藤 優子	ダイバーシティで乗り切る少子高齢化	2018年5月	立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) 設立10周年記念シンポジウム	
86	矢藤 優子	Effects of grandparenting on young children’s personality: a three-year longitudinal study	2018年8月	2018 American Psychological Association Annual Convention	Yi SUN
87	矢藤 優子	Observational Study on Autonomous Food Choice of Japanese three-year-old Kindergarteners.	2018年8月	2018 American Psychological Association Annual Convention	
88	矢藤 優子	Family Relationships and Children’s Development in China: from majority to minority	2018年8月	2018 American Psychological Association Annual Convention	John Lochman, YUANHONG JI, XINHUA TAO, YUANHONG JI, WEI WANG,

89	矢藤 優子	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成 一人間性（人格性）成長の一貫性を前提としたパーソナリティの探究へ向けて—	2018年8月	パーソナリティ心理学会第27回大会	サトウタツヤ・岡本尚子・安田裕子・鈴木華子・川本静香・神崎真実・中田友貴・肥後克己・孫怡・妹尾麻美
90	矢藤 優子	エコチル調査の概要と進捗—発達研究における出生コホート研究の意義—	2018年8月	日本パーソナリティ心理学会第27回大会	新田裕史・山縣然太郎
91	矢藤 優子	子どもの「留守児童」経験が養育者との社会的関係性に及ぼす影響—「かかわり指標」を用いて—	2018年9月	日本心理学会第82回大会	連 傑濤・孫・ 怡
92	矢藤 優子	保育場面において幼児が使用する注意喚起行動の行動目録	2018年9月	日本心理学会第82回大会	廣瀬翔平・園田和子・園田裕紹
93	矢藤 優子	科学的根拠に基づく子育て支援に向けて—いばらきコホート研究の取り組み—	2018年11月	立命館グローバル・イノベーション研究機構 研究拠点成果報告シンポジウム	
94	矢藤 優子	「何から描き始めたのか？」 - Rey 複雑図形 (ROCF) 描画過程のタイプ分類の試み	2018年12月	第42回高次脳機能障害学会	依光美幸・塚田賢信・天野京子・長尾卯乃・山田良治・廣瀬翔平・幕内充
95	矢藤 優子	祖母の共同育児が親子の心身健康に及ぼす影響	2019年3月	日本発達心理学会第30回大会	孫怡・姜娜・連傑濤
96	矢藤 優子	生活環境多様性が子どもの発達状態およびかかわり質に及ぼす影響	2019年3月	日本発達心理学会第30回大会	連傑濤・孫怡
97	矢藤 優子	親子関係を行動から測る：かかわり指標 (Interaction Rating Scale) の国際比較と今後の課題	2019年3月	日本発達心理学会第30回大会	連童・田中笑子・孫怡・連傑濤
98	矢藤 優子	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成	2019年3月	日本発達心理学会第30回大会	孫怡・岡本尚子・安田裕子・川本静香・鈴木華子・板倉昭二
99	矢藤 優子	Quantitative and Qualitative Analyses of Drawing Tests: Development, Personality, and Cultures	2019年3月	The third biennial International Convention of Psychological Science	Wallon, P., Ji, Y., & Jobert, M.
100	矢藤 優子	Comparative Analysis of Developmental State between Rural Left-behind Children and Non-	2019年3月	The third biennial International Convention of Psychological Science	Jietao Lian & Yi Sun

		Left-behind Children in Henan Province of China			
101	矢藤 優子	Relationship between Temperament Traits and Brain Functional Connectivity in Resting State and in Emotional Arousal Condition: A NIRS Study	2019年3月	The third biennial International Convention of Psychological Science	Yi Sun, Yasuyo Minagawa, Eiichi Hoshino & Nobuhiko Kijima
102	堀江 未来	Nurturing our youth for sustainable future	2019年1月	Thai International Science Fair	Yoon Chung, Christina Yu, and Wiwat Ruenglertpanyakul
103	サトウタツヤ	「大学生のやる気はなぜなくなるのか？」複線径路等至性モデリング (TEM) による検討 ——マツダ株式会社・立命館大学による共同研究「質的研究アナリスト体験型育成プログラムの開発」による TEM 院生版 PBL(A 班) からの学び——	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	田中文昭・張曉紅・浅瀬万里子・安田裕子・神崎真実・土元哲平・菅井育子・隅本雅友
104	サトウタツヤ	大学生のやる気はなぜなくなるのか？どのようにしてなくならないようにできるのか？ ——TEAによる検討——	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	岡野雄気・若杉美穂・菱ヶ江恵子・安田裕子・神崎真実・土元哲平・菅井育子・隅本雅友
105	サトウタツヤ	自傷行為を行う生徒と関わる担任教師に対する支援のあり方—複線径路・等至性モデリング (TEM) による分析	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	守屋彩加・川本静香
106	サトウタツヤ	避難区域外での行動選択と支援に関する研究—福島県の住民の語りから—	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	有澤晴香・川本静香
107	サトウタツヤ	Dialogue with "Voices of the Analysis" in Transition :The Perspective from Multi-voicedness	2019年3月	The 1st Transnational Meeting on Trajectory Equifinality Approach	Tsushima, T
108	サトウタツヤ	Fifteen years of Trajectory Equifinality Approach	2019年3月	The 1st Transnational Meeting on Trajectory Equifinality Approach	
109	谷 晋二	Metaphor Co-Creation	2018年6月	ACBS 16th	三田村 仰、瀬口 敦、首藤 裕介
110	谷 晋二	Matrix for a woman suffering from Tinnitus and depression	2018年6月	ACBS 16th	

111	谷 晋二	Training perspective-taking skills by using A maze-instruction game: A case study	2018年7月	Association of Contextual Behavioral Science 16th	Horiuchi, Y., Miyake, Y., Hiramatsu & Y., Minami, T.,
112	谷 晋二	特別企画1:古典的条件づけと認知行動療法	2019年2月	認知行動療法コロキウム2018 in 小樽	
113	北出 慶子	応用言語学分野におけるTEA/TEM	2018年5月	第8回総合心理学セミナー	
114	北出 慶子	留学生とともに学ぶ国際共修—効果的な授業実践へのアプローチ—	2018年6月	異文化間教育学会 第30回年次大会	末松和子、尾中夏美、黒田千晴、米澤由香子
115	北出 慶子	Career development of a female college student who decided not to become a Japanese language teacher:Life transitions and ideologies	2018年6月	The 10th International conference on the Dialogical Self	
116	北出 慶子	国際共修授業のアセスメント—担当教員のビリーフと授業設計—	2018年8月	CAJLE/ACELJ 2018 カナダ日本語教育振興会 年次大会	
117	北出 慶子	人の生の歩みとその可能性を拓く「応用言語学におけるTEA/TEMの広がり」	2018年9月	日本心理学会 第82回大会	
118	北出 慶子	日本語教育における質的データ分析法の意義と課題 「TEA/TEM(複線径路・等至性アプローチ)の日本語教育における意義」	2018年10月	第46回アカデミック・ジャパニーズ研究会(AJG)	
119	北出 慶子	日本語教育におけるナラティブ研究の概観	2018年11月	言語教育とナラティブの国際的展開	
120	北出 慶子	日本語教育とナラティブのインターフェイス「日本語学習者・教師のライフの広がり」とナラティブ」	2018年11月	日本語教育学会 2018年秋季大会	
121	北出 慶子	The development of Trajectory Equifinality Approach (TEA) in Applied Linguistics	2019年3月	The 1st transnational conference of TEA	
122	北出 慶子	コミュニティ間を有機的に繋ぐ人材育成を目指して—サービスラーニング、多文化教育、地域日本語教室での実践省察から考える市民性教育に向けての現実と課題—「留学生支援ボランテ	2019年3月	言語文化教育研究学会 第5回年次大会	遠山千佳・平野莉江子・村山かなえ・山口洋典

		ィア参加学生の学び]			
123	斎藤 進也	Development on the Authoring and Playable Platform Based on Omnidirectional Image Data	2018年8月	Replaying Japan 2018	Shuji Watanabe, Shosaku Takeda, Kazutoshi Iida, Seiki Okude
124	山口 洋典	Cultivate writing habit for the reflective and active learner in service-learning curriculum: by presenting prompts and 3 principals	2018年7月	International Association for Research on Service-Learning & Community Engagement (IARSLCE) 2018 Conference	Megumi AKIYOSHI, Toru KAWAI, Mitsuru KIMURA, Seishi MIYASHITA
125	山口 洋典	越境的対話のグループ・ダイナミクス: 活動理論のその先をめぐって	2018年9月	日本グループ・ダイナミクス学会第65回大会	山口(中上)悦子・香川秀太
126	山口 洋典	グローバル化と相即するコミュニティラジオの可能性: 偽装と棄却される人々を犠牲としないために	2019年2月	国際ボランティア学会第20回大会	宗田勝也
127	山口 洋典	当事者研究される側とする側との分断に関する一考察: 拠点での活動と日常生活との乖離へのまなざし	2019年2月	国際ボランティア学会第20回大会	赤瀬章
128	山口 洋典	企画セッション「ボランティア学研究(の未来)を読む」	2019年2月	国際ボランティア学会第20回大会	高橋真央・桑名恵・玉城直美・阿部健一・竹端寛
129	山口 洋典	学生とともに紡ぐわたしたちの未来: 「教育とICTの可能性」「多文化共生・難民」「社会企業/起業」「NPOの未来」「ジェンダーと開発」	2019年2月	国際ボランティア学会第20回大会	カルロス・ペリス、狩野剛、堀江正伸、桑名恵、藤掛洋子
130	山口 洋典	コミュニティ間を有機的に繋ぐ人材育成を目指してーサービスラーニング、多文化間教育、地域日本語教室での実践省察から考える市民性教育に向けての現実と課題ー	2019年3月	言語文化教育研究会第5回年次大会	北出慶子・遠山千佳・平野莉江子・村山かなえ
131	岡本 尚子	自然体験活動における危険予測に関する指導者の視線移動特徴	2018年5月	第36回日本生理心理学会大会	黒田恭史, 西村綾夏
132	岡本 尚子	系列順序情報保持に関わる脳活動の計測	2018年5月	第37回日本生理心理学会大会	肥後克己, 苅阪満里子

133	岡本 尚子	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成 一人間性（人格性）成長の一貫性を前提としたパーソナリティの探究へ向けてー	2018年8月	第27回日本パーソナリティ心理学会	矢藤優子, サトウタツヤ, 安田裕子, 鈴木華子, 川本静香, 神崎真実, 中田友貴, 肥後克己, 孫怡, 妹尾麻美
134	岡本 尚子	学習者同士が教え学び合う過程における両者の脳活動の特徴 ー大学生を対象としたタングラム課題実験を通してー	2018年9月	教育システム情報学会第43回全国大会	黒田恭史
135	岡本 尚子	プランニングと系列順序記憶の関連についての検討	2018年9月	第82回日本心理学会	肥後克己
136	岡本 尚子	展開図課題における視線移動特徴	2018年9月	日本教育工学会第34回全国大会	黒田恭史
137	岡本 尚子	Development of Japanese eye typing system	2018年11月	Society for Neuroscience 2018	Isao Motoyama, T. Uda, Madoka Yamazaki, Yasufumi Kuroda, Hideo Eda
138	岡本 尚子	Development of mutual learning system for advanced educational research. - NIRS and GSR measurement during tangram puzzle	2018年11月	Society for Neuroscience 2018	Madoka Yamazaki, Hideo Eda, Yasufumi Kuroda
139	岡本 尚子	I C Tを用いた教材コンテンツ制作における現職教員教育としての効果	2018年12月	日本教育実践学会 第21回研究会	黒田恭史
140	岡本 尚子	Measuring Hazard Prediction Skill with Eye Movements	2018年12月	6th International Conference on Trends in Health and Medicine	Yasufumi Kuroda
141	中鹿 直樹	教員の賞賛行動に対するフィードバックの効果の検討 ー特別支援学校の教員を対象にした予備的研究ー	2018年11月	対人援助学会第10回大会	土田菜穂
142	中鹿 直樹	セルフ・マネジメントスキル獲得のための模擬喫茶店舗 ーポジティブなフィードバックが正の強化として機能するための環境設定について考えるー	2018年11月	対人援助学会第10回大会	濱口翔子・高山仁志・土田菜穂
143	三田村 仰	Co-creating a metaphor for evoke curiosity about fear	2018年7月	ACBS World Conference 16	
144	澤野 美智子	Conveying Sensuosity: the cases of Forklift Operating Education	2018年12月	Anthropology of Japan in Japan 2018 Fall Meeting	
145	肥後 克己	系列順序情報保持に関わる	2018年5月	第36回日本生理心理学会大会	岡本尚子・葺阪満里子

		脳活動の計測			
146	肥後 克己	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成—人間性（人格性）成長の一貫性を前提としたパーソナリティの探求へ向けて—	2018年8月	日本パーソナリティ心理学会第27回大会	矢藤優子・サトウタツヤ・岡本尚子・安田裕子・鈴木華子・川本静香・神崎真実・中田友貴・孫怡・妹尾麻美
147	肥後 克己	プランニングと系列順序記憶の関連についての検討	2018年11月	日本心理学会第82回大会	岡本尚子
148	神崎 真実	Teachers' Politics of Inclusive Education in Elementary School: A Girl with Down's Syndrome and Her School Settings.	2018年6月	The Asian Conference on Cultural Studies	Kato, H., & Sato, T.
149	神崎 真実	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成—人間性（人格性）成長の一貫性を前提としたパーソナリティの探求へ向けて—	2018年8月	日本パーソナリティ心理学会第27回大会	矢藤優子・サトウタツヤ・岡本尚子・安田裕子・鈴木華子・川本静香・中田友貴・肥後克己・孫怡・妹尾麻美
150	神崎 真実	なぜ通信制高校は増えたのか	2018年9月	日本教育学会第70回大会	内田康弘・土岐玲奈・濱沖敢太郎
151	神崎 真実	ビジュアル・ナラティブによる教育と支援	2018年9月	日本心理学会第82回大会	やまだようこ・家島明彦・いとうたけひこ・滑田明暢
152	神崎 真実	震災後の福島県における生活の立て直し—商業・農業者への聞き取り調査から—	2018年9月	日本心理学会第82回大会	浅見純音・齋藤絢子・サトウタツヤ
153	土田 宣明	エラー後の対応にみられる加齢変化	2018年9月	日本心理学会第82回大会	河上実樹・吉田裕香・田村昌彦
154	松田 亮三	イタリア医療機構の概要	2018年6月	イタリア家庭医と日本の開業医の未来	
155	松田 亮三	How a complex financial system mediates politics: an analysis of the Statutory Health Insurance System in Japan	2018年7月	The 25th IPSA World Congress of Political Science, RC25.03 Conference in a Conference: International Comparison of Health Policies and Politics	
156	松田 亮三	エヴィデンスと政策—批判的実在論からの検討	2018年11月	第3回批判的実在論研究会	
157	松田 亮三	刑務所医療改革—国際的動向と日本の課題	2018年12月	日本医療福祉政策学会第2回研究大会	
158	松田 亮三	Gradual Tunings for Sustainability: The Japanese Healthcare Reform since the Late	2019年2月	Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during "the Lost Two Decades" : A Workshop	

		1980s			
159	松田 亮三	Universalism under Pressure: The Changing Role of the State in the French and Japanese Healthcare System	2019年2月	Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during "the Lost Two Decades": A Workshop	Monika Steffen
160	松田 亮三	Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during "the Lost Two Decades"	2019年2月	Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during "the Lost Two Decades": A Workshop	Masato SHIZUME and Masatoshi KATO
161	山本 耕平	就労支援から総合的支援へー日本の若者支援の課題ー	2018年8月	韓・日若者支援フォーラム 韓・日青年層支援政策の現況と課題ー日本若者政策の示唆点ー	
162	山本 耕平	日本の事例から模索する地域社会での若者支援の方向	2018年10月	韓国福祉行政学会 2018年度秋季学術大会	
163	山本 耕平	日本の若者支援制度について	2018年11月	2018 若者保障グローバルフォーラム	
164	山本 耕平	日本の福祉制度における若者支援の位相と地域若者実践の哲学・課題	2018年11月	2018年度 自活福祉国際シンポジウム	
165	竹内 謙彰	思春期・青年期の自閉症スペクトラム児の療育プログラムの開発 (その4) ー中学生:参加児の課題に配慮したスタッフの関わり方とプログラム作成の工夫ー	2018年9月	日本特殊教育学会第56回大会	野口有里恵・福田瑞穂・井狩美紀・松元佑・荒木穂積
166	竹内 謙彰	思春期・青年期の自閉症スペクトラム児の療育プログラムの開発 (その5) ー中学生・高校生:参加児の自主性と協同性を育むための場と遊びの工夫ー	2018年9月	日本特殊教育学会第56回大会	堀内悠・川島英輝・神部希・松元佑・荒木穂積
167	竹内 謙彰	自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発 (13) ー幼児・小学校低学年:参加児の自己表現と他者意識を繋ぐための遊びの工夫ー	2018年9月	日本特殊教育学会第56回大会	近藤優佳・何婉琪・北川理沙・富井奈菜実・松元佑・荒木美知子・荒木穂積
168	竹内 謙彰	自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発 (14) ー小学生:グループ分けにおけるスタッフの関わり方とプログラム作成の工夫ー	2018年9月	日本特殊教育学会第56回大会	鈴木航平・三宅結佳・山田翔大・松元佑・荒木穂積
169	野田 正人	子ども時代の傷つき体験の影響について	2018年11月	井手町解放保育研究集会	

170	野田 正人	虐待相談記録の様式、記述に関する研究	2018年12月	子ども虐待防止学会おかやま大会	藤間公太 (国立社会保障・人口問題研究所)
171	野田 正人	最近の不登校をめぐって	2019年3月	日本学校ソーシャルワーク学会近畿ブロック研究会	
172	野田 正人	学校に求められるいじめへの対応と現状	2019年3月	京都小児科医会 第35回子どものことと身体懇話会	
173	松原 洋子	「引揚医療と民族優生—国策としての人工妊娠中絶」	2018年5月	立命館大学コア研究センター 第95回 月例研究会	
174	松原 洋子	優生保護法下での優生学的適応による人工妊娠中絶—地区優生保護審査会の役割を中心に	2018年5月	日本科学史学会第65回年会	
175	松原 洋子	「優生保護法の批判的再発見」	2018年12月	日本生命倫理学会第30回年次大会、公募ワークショップII「優生保護法下の強制不妊手術と生命倫理」	
176	星野 祐司	刺激提示時間が再生と再認における検索誘導性忘却におよぼす効果	2018年9月	日本認知心理学会第16回大会 (発表論文集, pP2-084)	堀内久美子
177	星野 祐司	学習直後の項目と順序の記憶における語長効果: 項目と順序の過程分離手続きを用いた検討	2018年9月	日本心理学会第82回大会 (発表論文集, 2PM-074)	都賀美有紀
178	岡本 直子	What is caused by CB2? – Exploratory study using fNIRS-	2018年5月	20st International Energy Psychology Conference, Association for Comprehensive Energy Psychology	Iwao Yokuda
179	岡本 直子	A Pilot Study on Autonomic Improvement of Thought Field Therapy for Trauma Treatment	2018年5月	20st International Energy Psychology Conference, Association for Comprehensive Energy Psychology	Ayame Morikawa, Iwao Yokuda
180	八木 保樹	自尊心と謙遜研究の残された課題 基調講演 (山口勸・東京大学名誉教授) の企画・司会および解説	2018年8月	日本パーソナリティ心理学会第27回大会 発表論文集 基調講演 (山口勸・東京大学名誉教授) の企画・司会および解説	
181	八木 保樹	緩衝機能としての安全感を喚起する重要他者の想起と他の心的資源との効果の違い	2018年10月	関西心理学会・第130回大会	亀井隆幸
182	服部 雅史	Goodness of ideas is judged based on affective valence: A study using the remote associates task.	2018年7月	The 40th Annual Conference of the Cognitive Science Society	Orita, R,
183	服部 雅史	問題解決のパラドックス: プライミングの妨害性とノイズの有益性	2018年8月	日本認知科学会第35回大会	織田涼・西田勇樹

184	服部 雅史	ディーブ+メタ+ α : 思考の合理性・創造性・意識性をめぐって	2018年12月	第22回人工知能美学芸術研究会 : 「ザ・直感」	
185	服部 雅史	A cue can cause an impasse: Paradoxical dynamics of problem solving and creativity	2019年3月	ICPS 2019: International Convention of Psychological Science	Orita, R., & Nishida, Y.
186	服部 雅史	The activated affective state valence alters the way to assimilate helpful cues in insight problem solving	2019年3月	ICPS 2019: International Convention of Psychological Science	Orita, R.,
187	北岡 明佳	博士が教える科学教室「北岡明佳 錯視工作教室」	2018年5月	博士が教える科学教室「北岡明佳 錯視工作教室」	
188	北岡 明佳	2つの視覚的文法から見た色の知覚の再検討	2018年6月	日本色彩学会第49回全国大会[大阪]'18	
189	北岡 明佳	錯視いろいろ2	2018年7月	第39回関西若手実験心理学研究会 (10周年記念回)	
190	北岡 明佳	知覚心理学(錯視)を利用した商品開発	2018年7月	京都ものづくり協力会	
191	北岡 明佳	色陰現象、静脈が青く見える錯視、および加算の色変換による色の錯視の同一性	2018年8月	日本視覚学会2018年夏季大会	
192	北岡 明佳	縦断勾配錯視についての実験的研究	2018年8月	日本視覚学会2018年夏季大会	小山真季・境 敦史
193	北岡 明佳	錯視の世界	2018年8月	NEXT VISION 講演	
194	北岡 明佳	錯視アート体験で、クラクラしよう。	2018年8月	ワークショップ	
195	北岡 明佳	色依存の速度錯視	2018年9月	視覚科学フォーラム2018 第22回研究会	
196	北岡 明佳	他者が感じる美しさ・好ましさ・魅力の予測の比較	2018年9月	視覚科学フォーラム2018 第22回研究会	光廣可奈子
197	北岡 明佳	明るさや奥行きに関わる新しい錯視図形	2018年9月	YPS2018 (第46回 Young Perceptionists' Seminar)	臼井健太郎
198	北岡 明佳	フットステップ錯視は停止/粘着錯視と同じ錯視なのか?	2018年9月	YPS2018 (第46回 Young Perceptionists' Seminar)	
199	北岡 明佳	【サイエンスカフェ】目の錯覚をカガクする	2018年9月	高知みらい科学館 オーテピア サイエンスカフェ	
200	北岡 明佳	【科学教室】目の錯覚を楽しもう	2018年9月	高知みらい科学館 オーテピア ワークショップ	
201	北岡 明佳	錯視を含む閾上視覚の知見を応用した視野欠損を発見する新しい方法の模索	2019年2月	第4回視覚生理学基礎セミナー ～視野と視覚生理学のコラボレーション～	
202	北岡 明佳	Color illusion and	2019年2月	第13回錯覚ワークショップ	

		histogram equalization			
203	北岡 明佳	知られざる知覚研究の応用可能性	2019年3月	2018年度公開セミナー 「心理学の基礎から社会への応用を考える」	
204	北岡 明佳	動物心理学から錯視の研究へ	2019年3月	異分野間協働懇話会	
205	北岡 明佳	錯視のおはなしと錯視のワークショップ	2019年3月	錯視のおはなしと錯視のワークショップ	
206	北岡 明佳	Two types of spatial color mixtures and color illusions	2019年3月	EIP19 (Empirical Research in Psychology)	
207	山本 博樹	Continuous use of structure strategy affects academic adjustment and achievement of first-year high school students: Analysis of strategy use throughout comprehending.	2018年7月	The 40th annual Conference of the International School Psychology Association	
208	山本 博樹	How does signaling support first-year high school students' comprehension of doxography?	2018年8月	The 2018 APA Annual Convention	
209	山本 博樹	本当に認知研究は説明実践に貢献してきたのか?—「分かりやすい説明」をめぐるアポリアへの挑戦—	2018年9月	日本認知心理学会第16回大会	吉田甫・織田涼・伊藤貴昭・島田英昭・深谷達史・楠見孝・市川伸一
210	山本 博樹	映像理解を捉え直す—学習と教育をめぐる—	2018年9月	日本教育心理学会第60回大会	村野井均・青山征彦・梶井直親・宇治橋祐之
211	山本 博樹	高校初年次生における構造方略の持続的使用が学習適応と学業達成に及ぼす影響 (1) —説明文の理解過程を通じた構造同定がもたらす影響—	2018年9月	日本教育心理学会第60回大会	織田涼
212	山本 博樹	学習支援としての説明は本当に有効なのか (3) —子ども自身による説明活動の実態と課題—	2018年9月	日本教育心理学会第60回大会	伊藤貴昭・吉田甫・小野田亮介・辻義人・小田切歩・藤江康彦
213	山本 博樹	高校初年次生における構造方略の持続的使用が学習適応と学業達成に及ぼす影響 (2) —教科別達成度への影響過程—	2018年9月	日本心理学会第82回大会	織田涼

214	山本 博樹	公認心理師が遂げるべき説明とは？(2)一来談者の困難性に応じた「分かりやすい説明」への挑戦一	2018年9月	日本心理学会第82回大会	水野治久・織田涼・山崎久美子・岡本直子・久田満・沢宮容子
215	山本 博樹	公認心理師は支援的な説明力をどこで学ぶのか？	2018年9月	日本心理学会第82回大会	
216	東山 篤規	Judgments of visual somatic inclination: Evidence against visual capture	2018年8月	The 41th Annual Meeting of European Conference on Visual Perception	Tadashi Yamazaki
217	東山 篤規	恒常法に基づく仮想環境を用いた鏡像の距離知覚	2018年9月	第23回バーチャルリアリティ学会大会論文集	岡田侑真・大井翔・松村耕平・野間春生
218	東山 篤規	身体姿勢と視知覚	2018年10月	日本科学哲学会2018年次大会	
219	東山 篤規	傾斜面に対する視覚および体性感覚の順応	2018年10月	関西心理学会第130回大会	山崎校
220	東山 篤規	さまざまな逆さまの世界	2018年11月	第34回日本臨床皮膚科医会近畿ブロック総会・学術大会	
221	東山 篤規	身体姿勢と視知覚	2019年3月	日本機械学会関西支部第94期定時総会講演会	
222	藤本 学	就労者の社会適応力が感情調節方略に及ぼす影響	2018年8月	日本社会心理学会第59回大会	古賀弥生
223	荒木 寿友	問いでわかる道徳授業実践講座	2018年6月	明治図書出版ホームページ 教育ZINE	
224	荒木 寿友	「道徳科のスタート！聞きたい・知りたい！！何でもQ&A」	2018年8月	日本道徳性発達実践学会第18回香川大会	進行 植田和也(香川大学) 代表質問者: 松本周子(和気町立和気中学校) 清水顕人(附属坂出小学校) 登壇者: 澤田浩一(文部科学省) 上田仁紀(滋賀県愛荘町立愛知川小学校) 七條正典(高松大学)
225	荒木 寿友	Development of Competences and Formation of Character: Redefinition of morality led from the moral competence	2018年11月	44th Association for Moral Education Annual Conference	Kazutomo Araki
226	渡辺 克典	染谷莉奈子「障害者総合支援法以降の高齢期知的障害者家族——知的障害者家族における母親の“離れ難さ”」へのコメント	2018年9月	日本社会学理論学会第13回大会 修論フォーラム1	
227	渡辺 克典	活動報告 障害女性の生きづらさに関する地域間比較	2019年2月	公開シンポジウム「人間科学と混合研究法の未来」(2018年度人間科学研究所年次総会)	土屋葉・河口尚子・時岡新・伊藤葉子・伊藤綾香・伊東香純
228	都賀 美有紀	語長と頻度が学習直後の順序の再構成課題に及ぼす影響	2018年9月	日本認知心理学会第16回大会	

229	都賀 美有 紀	学習直後の項目と順序の記憶における語長効果:項目と順序の過程分離手続きを用いた検討	2018年9月	日本心理学会第82回大会	星野祐司
230	對梨 成一	坂道の見かけの縦断勾配に及ぼす双眼鏡の効果—虚像とその網膜像による仮説—	2018年9月	立命館大学認知科学研究センター9月研究会	

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第1回 混合研究法 (MMR) コロキウム	立命館大学大阪いばらきキャンパス コロキウム	2018年6月10	180名	主催: 日本混合研究法学会 共催: 立命館大学人間科学研究所
2	世界アルツハイマーデー記念講演会	立命館大学朱雀キャンパス 大講義室	2018年9月8日	400名	主催: 公益社団法人認知症の人と家族の会 共催: 京都府、立命館大学人間科学研究所男性介護研究会
3	WHO版PFA研修会	立命館大学大阪いばらきキャンパス 研究会室3	2018年9月18日	20名	主催: 立命館大学人間科学研究所「トラウマとメンタルヘルス」 共催: 立命館大学人間科学研究所「司法面接支援プロジェクト」 後援: 法と心理学会
4	若者学の入り口 Youth studies @びあら	立命館大学衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館1F びあらイベントエリア	2018年11月2日	-	主催: 立命館大学図書館利用支援課 共催: 立命館大学人間科学研究所 企画協力: 公益財団法人京都市ユースサービス協会
5	絵本と音楽のコラボレーションの世界 ピクチャーブックヒーリング	聖心インターナショナルスクール ドゥシェインルーム	2018年12月9日	-	主催: 立命館大学人間科学研究所絵本プロジェクト 聖心インターナショナルスクール
6	East Asian Association of Psychology and Law 2018	立命館大学衣笠キャンパス	2018年12月14~16日	-	Sponsored by : East Asian Association of Psychology and Law Research Funding of Program for International Dissemination of Research Results, Supporting Globalization, Ritsumeikan University Co-sponsored by : Institute of Human Sciences, Ritsumeikan University The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology Private University Research Branding Project
7	講演会「働きながら介護するということ~これからの時代の介護を考える~」	立命館大学衣笠キャンパス創思館1階カンファレンスルーム	2019年1月20日	150名	主催: 社会福祉法人七野会・

					なのの友の会 共催：立命館大学人間科学研究 所「男性介護研究会」
8	講演会「高齢期のセクシュアリ ティと男女関係」	立命館大学衣笠キャン パス創思館 1 階 カンファレンスルー ム	2019年3月6日	100名	主催：立命館大学人間科学研 究所
9	男性介護者と支援者の全国ネット ワーク 10 周年記念イベント「ケ アメン・コミュニティの 10 周年 を祝う」 ・フォーラム「男性介護者が語る 介護と社会—男性介護語り部バン クから発信す」 ・祝賀会「祝おう！全国の仲間と ともに」	京都タワーホテル	2019年3月9日	-	主催：男性介護者と支援者の 全国ネットワーク、立命館大 学人間科学研究所男性介護研 究会
10	男性介護者と支援者の全国ネット ワーク 10 周年記念イベント「ケ アメン・コミュニティの 10 周年 を祝う」 ・男性介護ネット第 11 回総会 ・フォーラム「男性介護ネットを 〈女性の眼〉〈支援者の眼〉〈介護 者の眼〉から、みる」	立命館大学 衣笠キ ャンプス図書館カン ファレンスルーム	2019年3月10日	-	主催：男性介護者と支援者の 全国ネットワーク、立命館大 学人間科学研究所男性介護研 究会
11	2018 年度人間科学研究所年次総 会「人間科学と混合研究法の未 来」	立命館大学大阪いば らきキャンパス 立 命館いばらきフュー チャープラザ カン ファレンスホール、 イベントホール	2019年2月26日	100名	主催：立命館大学人間科学研 究所 実施協力：立命館大学立命館 グローバル・イノベーション 研究機構 第 3 期拠点形成型 R- GIRO 研究プログラム ・「学融的な人間科学の構築と 科学的根拠に基づく対人援助 の再編成」 ・「修復的司法観による少子高 齢化社会に寄り添う法・社会 システムの再構築」

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	稲葉 光行	2018 年度・八幡市における 子どもを中心とした地域の学 びとコミュニティ活性化の支 援活動実践	八幡市ふるさと学習館、八幡市文化センター	2018年4月 1日
2	稲葉 光行	技術屋から見た「有罪率 99.9%」、『時の法令』、雅 粒社、2018年（平成30年） 4月15日	時の法令【第2047号】	～2019年3 月31日
3	稲葉 光行	間違いを認める科学、間違い を認めない司法、『時の法 令』、雅粒社、2018年（平 成30年）5月15日号【第 2049号】	時の法令【第2049号】	2018年4月 15日～

4	稲葉 光行	台湾で進む司法改革, 『時の法令』, 雅粒社, 2018年 (平成30年) 6月15日号 [第2051号]	時の法令 [第2051号]	2018年5月 15日～
5	稲葉 光行	「痛み」がわかる司法の実現 に向けて, 『時の法令』, 雅 粒社, 2018年(平成30年) 7月15日号 [第2053号]	時の法令	2018年6月 15日～
6	稲葉 光行	えん罪被害からの立ち直りを 支えるコミュニティ, 『時の 法令』, 雅粒社, 2018年 (平成30年) 8月15日号 [第2055号]	時の法令	2018年7月 15日～
7	稲葉 光行	日本版司法取引でえん罪は増 える? その危険性を解説, 現 代ビジネス, 講談社, 2018 年9月18日	現代ビジネス	2018年8月 15日～
8	稲葉 光行	「コミュニケーション研究の ためのテキストマイニング手 法入門」, テキストマイニン グ手法セミナー), 青山学院 大学国際政治経済学部	テキストマイニング手法セミナー (東京・青山学院大学)	2018年9月 7日～
9	稲葉 光行	司法システムと信頼, 『時の 法令』, 2018年(平成30 年) 9月15日号 [第2057 号]	時の法令 (第2057号)	2018年9月 15日～
10	稲葉 光行	司法における「危機」と「チ ャンス」, 『時の法令』, 雅粒社, 2018年(平成30 年) 10月15日号 [第2059 号]	時の法令	2018年9月 15日～
11	稲葉 光行	外の視点の大切さ, 『時の法 令』, 雅粒社, 2018年(平 成30年) 11月15日号 [第 2061号]	『時の法令』	2018年10 月15日～
12	稲葉 光行	司法実務家が大学で学ぶとい うこと, 『時の法令』, 雅粒 社, 2018年(平成30年) 12 月15日号 [第2063号]	『時の法令』	2018年11 月15日～
13	稲葉 光行	司法における「思いやり」と 「コスト」, 『時の法令』, 雅粒社, 2019年(平成31 年) 1月15日号 [第2065 号]	『時の法令』	2018年12 月15日～
14	稲葉 光行	司法における方言, 『時の法 令』, 雅粒社, 2019年(平	『時の法令』	2019年1月 15日～

		成31年)2月15日号〔第2067号〕		
15	稲葉 光行	データで司る法、データから省察する司法、『時の法令』, 雅粒社, 2019年(平成31年)3月15日号〔第2069号〕	『時の法令』	2019年2月15日～
16	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間「好きなことをかなえるために」	中日こどもウィークリー	2018年4月7日～2018年4月7日
17	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間「予定の見える化を」	中日子どもウィークリー	2018年5月16日～2018年5月16日
18	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間「悩める子どもたち」	中日子どもウィークリー	2018年6月7日～2018年6月7日
19	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間「子どもの悩みを聞く」	中日子どもウィークリー	2018年6月30日～2018年6月30日
20	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間「晴れたり嵐が来たり」	中日子どもウィークリー	2018年7月28日～2018年7月28日
21	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 もうすぐ「防災」の日	中日こどもウィークリー	2018年8月25日～2018年8月25日
22	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 人生を変える練習	中日こどもウィークリー	2018年9月22日～2018年9月22日
23	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 幸せを買う方法	中日こどもウィークリー	2018年10月20日～2018年10月20日
24	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間友達関係の悩み	中日子どもウィークリー親の時間子の時間	2018年11月17日～2019年11月17日
25	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 大きな時間の流れ	中日子どもウィークリー親の時間子の時間	2018年12月15日～2018年12月15日
26	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 楽しい、難しい友達関係	中日子どもウィークリー	2019年1月12日～2019年1月12日
27	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 良い子は重荷にも	中日子どもウィークリー	2019年2月9日～2019年2月9日

28	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 うまくいかない時	中日子どもウィークリー	2019年3月9日～2019年3月9日
29	増田 梨花	ライフデザイン～イメージ力を伸ばすためのワークショップ 企画・司会進行：増田梨花	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	2018年5月26日～2018年5月26日
30	増田 梨花	ブロッサムセミナーin 京都 平成30年度 第1回		2018年5月27日～2018年5月27日
31	増田 梨花	ブロッサムセミナーin 東京 平成30年度 第1回		2018年6月2日～2018年6月2日
32	増田 梨花	ブロッサムセミナーin 東京 平成30年度 第2回		2018年8月4日～2018年8月4日
33	増田 梨花	ブロッサムセミナーin 京都 平成30年度 第2回		2018年8月5日～2018年8月5日
34	増田 梨花	梨花先生による絵本&読み聞かせワークショップ 講師：増田梨花	日系センター 1階ロビー	2018年8月23日～2018年8月23日
35	増田 梨花	Art Healing Workshop～希望の樹木に生まれ！～ 講師：増田梨花	日系センター2階	2018年9月16日～2018年9月16日
36	増田 梨花	SP 盤「世界の国からこんにちは」 講師：増田梨花	金沢市蓄音器館	2018年9月22日～2018年9月22日
37	増田 梨花	日本ピア・サポート学会 第17回研究大会 ワークショップ第2部会「世界平和とピア・サポート」ー世界一貧しい国の大統領のスピーチー 企画・司会進行・講師：増田梨花	立命館大学 朱雀キャンパス	2018年10月7日～2018年10月7日
38	増田 梨花	日本ピア・サポート学会 第17回研究大会 副実行委員長：増田梨花	立命館大学 朱雀キャンパス	2018年10月7日～2018年10月8日
39	増田 梨花	日本ピア・サポート学会 第17回大会 大会記念シンポジウム（公開講座）目に見えないものをとらえる心ーピア・サポートと対人援助ー 企画・司会進行：増田梨花	立命館大学 朱雀キャンパス	2018年10月8日～2018年10月8日
40	増田 梨花	ブロッサムセミナーin 東京		2018年10月

		平成30年度 第3回		月20日～ 2018年10 月20日
41	増田 梨花	コミュニケーションスキル研 修 講師：増田梨花	NEXI 5階	2018年11 月22日～ 2018年11 月22日
42	増田 梨花	コミュニケーションスキル研 修 講師：増田梨花	NEXI 5階	2018年11 月29日～ 2018年11 月29日
43	増田 梨花	東日本大震災等 復興支援チ ャリティーイベント「ピクチ ャーブックフィーリング」		2018年12 月9日～ 2018年12 月9日
44	増田 梨花	「世界の国からこんちには (2)」 講師：増田梨花	金沢市蓄音器館	2018年12 月22日～ 2018年12 月22日
45	増田 梨花	京都市教育委員会 学びのパ ートナー・すばるパートナー 事業 コーディネーター平成 29年度		2018年～
46	増田 梨花	コミュニケーションスキル研 修 講師：増田梨花	NEXI 5階	2019年1月 11日～2019 年1月11日
47	増田 梨花	「ふるさとの思い出」 講 師：増田梨花	金沢市蓄音器館	2019年3月 24日～2019 年3月24日
48	安田 裕子	「学振申請書作成講座」日本 学術振興会特別研究員 申請 内容ファイル作成のポイント (講習会)	京都市・立命館大学、2019年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2018年4月 3日～2018 年4月3日
49	安田 裕子	「学振申請書作成講座」日本 学術振興会特別研究員 申請 内容ファイル作成のポイント (講習会)	京都市・立命館大学、2019年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2018年4月 4日～2018 年4月4日
50	安田 裕子	メンタルヘルス研修—心身と もに健やかに働くために	茨木市・立命館大学、2018年度新人職員研修	2018年4月 13日～2018 年4月13日
51	安田 裕子	TEA (Trajectory Equifinality Approach: 複 線径路等至性アプローチ) — 15年間のひろがり 臨床心 理におけるTEAの活用(講 演)	茨木市・立命館大学、立命館大学大学院人間科学研究科開設記念イベント第1弾 第8回総合心理学セミナー	2018年5月 12日～2018 年5月12日

52	安田 裕子	基礎研究から新たな実践へ： トラウマ記憶とアタッチメン トー児童虐待における司法面 接と心身のケアとの連携への 示唆（シンポジウム）	立命館大学大阪いばらきキャンパス AN210、多専門連携による司法面接の実施を 促進する研修プログラムの開発と実装（研究代表者：仲真紀子）主催	2018年5月 26日～2018 年5月26日
53	安田 裕子	理論編 TLMG（発生の三層モ デル）と促進的記号（講演）	茨木市・立命館大学、TLMG（発生の三層モデル）の可能性	2018年7月 21日～2018 年7月21日
54	安田 裕子	メンタルヘルス研修ー心身と もに健やかに働くために	茨木市・立命館大学、2018年度新人職員研修（中途採用）	2018年10 月16日～ 2018年10 月16日
55	安田 裕子	パネルディスカッション 日 本国内におけるナラティブ研 究の特徴 ナラティブ×複線 径路等至性アプローチ （TEA：Trajectory Equifinality Approach）の 観点から（指定討論）	京都市・立命館大学、国際シンポジウム 言語学習・言語教育におけるナラティ ブの国際的展望ー海外と国内のナラティブ研究の対話と展開	2018年11 月17日～ 2018年11 月17日
56	安田 裕子	TEMを用いて分析した修士論 文の中間報告に対するスーパ ーバイズ(特別研究のゼミに て)	東京都千代田区・共立女子大学、共立女子大学大学院看護学研究所地域看護学分 野	2018年11 月29日～ 2018年11 月29日
57	安田 裕子	子どもが性被害を打ち明けた ときの対応に関するロールプ レイ	姫路市医師会館5階大ホール、トラウマへの気づきを高める“人ー地域ー社会” によるケアシステムの構築（研究代表者：大岡由佳）主催 企画・田口奈緒 市民 講座「地域における性教育ー子どもへの性被害の現状を踏まえて」	2018年12 月2日～ 2018年12 月2日
58	安田 裕子	グループディスカッション 「司法面接前・中・後での子 どもに安心感を与える働きか けとは」（実務家研修）	立命館大学大阪いばらきキャンパス B275・276 ラーニングスタジオ、多専門連 携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装（研究代表者： 仲真紀子）主催 「司法面接の前・中・後における子どもへの支援・ケアに関す る検討会」	2018年12 月9日～ 2018年12 月9日
59	安田 裕子	過程と発生を捉える TEA（複 線径路等至性アプローチ）ー TEMを中心に（講習会）	金沢市・金沢歌劇座、中部 M-GTA 研究会 第2回講演会	2019年1月 13日～2019 年1月13日
60	安田 裕子	子どものいない人生を考える （講演）	奈良市・奈良県女性センター、平成30年度 女性の活躍支援講座Ⅱ	2019年1月 19日～2019 年1月19日
61	安田 裕子	学融的な人間科学の構築と科 学的根拠に基づく対人援助の 再編成（パネルディスカッシ ョン）	茨木市・立命館大学、2018年度立命館大学人間科学研究所年次総会「人間科学 と混合研究法の未来」	2019年2月 26日～2019 年2月26日
62	安田 裕子	基礎研究から新たな実践へ： トラウマ記憶とアタッチメン トー児童虐待における司法面 接と心身のケアとの連携への 示唆（シンポジウム録）	RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」研究開発領域 研究代 表者仲真紀子「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開 発と実装」（2016年度～2018年度）研究助成	2019年2月 ～2019年2 月

63	安田 裕子	アンコンシャス・バイアス研究へのいくつかのサジェスション (指定討論)	大阪市・関西大学、アンコンシャス・バイアス研究会 第1回研究会	2019年3月9日～2019年3月9日
64	若林 宏輔	立命館大学研究部学術図書出版セミナー「研究成果公開促進費」	立命館大学研究部学術図書出版セミナー	2018年7月24日～
65	若林 宏輔	リビング子ども大学「裁判官と探偵に挑戦」人の心理は不思議、真実は何！？事実を調べて事件について考えよう」	リビング子ども大学	2018年8月3日～
66	若林 宏輔	高松高等裁判所刑事鑑定研究会「取調録音・録画の心理学的問題点、その対策について」	高松高等裁判所	2018年10月15日～
67	若林 宏輔	ShiRto 司法 「罪は罰だけで裁けない? 「修復的司法」が司法の根本を変える」	ShiRto	2019年1月21日～
68	山崎 優子	ひらめき☆ときめきサイエンス「模擬裁判に参加して被告人に対する判決を考えてみましょう」(日本学術振興会主催)	立命館大学 衣笠キャンパス 末川記念会館 陪審法廷他	2018年8月29日～2018年8月29日
69	矢藤 優子	乳幼児期の社会性の発達と親子関係について	花王(株)感性科学研究所	2018年5月28日～
70	山浦 一保	KDDI 株式会社「解体新書2017 座談会」	KDDI 飯田橋ビル	2018年7月20日～2018年7月20日
71	山浦 一保	平成30年度 静岡県立大学経営情報学部 特別講義	組織内外における人間関係構築と組織経営 人間関係構築のためのトレーニング	2018年12月21日～2018年12月21日
72	澤野 美智子	Advisory Comments in the Workshop for Young Researchers in Japan & S. Korea, session2	Seminar Room 3, National Museum of Ethnology	2019年2月23日～2019年2月23日
73	肥後 克己	人間と人工知能の問題解決能力	立命館大学 人間科学研究所 人間科学のフロント	2018年10月1日～
74	野田 正人	あすくる創設の意義と立ち直り支援を行う職員としての心構えについて	コラボしが21 滋賀県少年補導センター職員研修会	2018年4月26日～
75	野田 正人	発達障害・児童虐待などの見立てと対応	京都市教育相談総合センター 京都市教育委員会ソーシャルワーク実践研修	2018年5月9日～
76	野田 正人	学校のチーム支援とSSWの役割	宮城県庁 宮城県教育委員会 平成30年度スクールソーシャルワーカー第1回研修会	2018年5月10日～
77	野田 正人	スクールソーシャルワーカー	鳥取県東部地区教育相談・不登校担当教員研修 鳥取県教育センター	2018年5月

		との連携によるチーム支援の 在り方		18日～
78	野田 正人	要保護児童対策協議会 民生 委員としてできること	湖南省民生委員児童委員協議会 湖南省社会福祉センター大会議室	2018年6月 2日～
79	野田 正人	要対協の役割	松阪市児童支援連絡協議会 代表者会議	2018年6月 7日～
80	野田 正人	子どもの貧困対策について	沖縄県名護市(13日) 沖縄県八重瀬町(14日) 沖縄県教育委員会 教員免許 更新講習	2018年6月 13日～2018 年8月14日
81	野田 正人	不登校など学校不適應への学 校支援体制づくり	湯梨浜町中央公民館 鳥取県教育委員会「学校における組織的な支援体制づく り」講演会	2018年6月 14日～
82	野田 正人	関係機関の連携・協働と在宅 支援 非行対応の基本	平成30年度滋賀県児童福祉司任用前研修 滋賀県庁	2018年6月 20日～
83	野田 正人	和歌山県スクールソーシャル ワーカー事例研修	和歌山県教育庁 SSW研修 有田川町役場	2018年6月 21日～
84	野田 正人	和歌山県スクールソーシャル ワーカー事例研修	和歌山県教育庁 SSW研修 有田中央高等学校	2018年6月 21日～
85	野田 正人	子どもの虐待対応の基本 要保護児童対策地域協議会の 運営	平成30年度滋賀県児童福祉司任用前研修 滋賀県庁	2018年6月 27日～
86	野田 正人	和歌山県スクールソーシャル ワーカー事例研修	和歌山県教育庁 SSW研修 打田生涯学習センター	2018年6月 28日～
87	野田 正人	子どもの権利擁護 子ども家 庭福祉における倫理的配慮	平成30年度滋賀県児童福祉司任用前研修 滋賀県庁	2018年7月 18日～
88	野田 正人	非行への対応と要保護児童対 策地域協議会との連携	平成30年度 第5回大阪府教育委員会スクールソーシャルワーカー育成支援研 修	2018年8月 6日～
89	野田 正人	児童虐待と支援機関の役割	長浜市子育て支援講座 長浜市役所	2018年8月 7日～
90	野田 正人	アセスメントに基づく支援の 再確認	京都府教育委員会 平成30年度まなび・生活アドバイザー地域別研修会	2018年8月 9日～
91	野田 正人	小学校での効果的支援を考え る ケース会議を素材に	鳥取市立世紀小学校研究会	2018年8月 10日～
92	野田 正人	学校の教育相談体制充実に向 けたSC及びSSWの効果的活 用による児童生徒理解と指導	鳥取県教育委員会 SSW連絡協議会 湯梨浜中央公民館	2018年8月 10日～
93	野田 正人	学校・市町村教育委員会との 協働	鳥取県教育委員会スクールソーシャルワーカー育成研修	2018年8月 11日～
94	野田 正人	教育相談のポイント イチャ モンと見立て	大和高田市人権教育研究会 奈良県産業会館	2018年8月 17日～
95	野田 正人	学校教育の使命と限界	栗東芸術文化会館 栗東市教職員全体研修 栗東市教育委員会	2018年8月 17日～
96	野田 正人	学校におけるスクールソーシ ャルワーカーの役割	平成30年度 和歌山県高等学校定時制通信制研究会研究大会 和歌山県自治会 館	2018年8月 27日～
97	野田 正人	要保護児童対策地域協議会運 営論 市町村児童家庭相談援 助論	三重県人権センター 平成30年度三重県児童福祉に関する指定講習会	2018年8月 30日～

98	野田 正人	ケース会議のすすめ方とアセスメント・プランニング	岐阜県スクールソーシャルワーカー研修会第2回 岐阜県社会福祉士会 農業福祉会館	2018年8月31日～
99	野田 正人	関係機関との連携・協働と在宅支援	三重県人権センター 三重県児童相談センター主催 児童福祉司任用後研修	2018年10月12日～
100	野田 正人	不登校児童生徒への適応指導教室の効果的な支援の在り方について	平成30年度全国適応指導教室・教育支援センター等連絡協議会 福島県郡山市立中央公民館	2018年10月17日～
101	野田 正人	児童虐待のために私たちができること	三重県玉城町保健福祉会館 同町子ども家庭支援ネットワーク会議講演会	2018年10月19日～
102	野田 正人	子ども家庭支援ネットワークの役割	三重県玉城町子ども家庭支援ネットワーク会議 玉城町保健福祉会館	2018年10月19日～
103	野田 正人	総合的な支援のための体制づくり・高等学校における効果的な支援	京都府立東舞鶴高等学校教職員研修	2018年10月24日～
104	野田 正人	不登校児童生徒の成長を促す効果的なアプローチを考える	長岡京市バンピオ1番館 第23回全国適応指導教室連絡協議会近畿/中国地域会議	2018年10月26日～
105	野田 正人	子ども虐待について	京都市総合教育センター 京都市教育委員会人権教育講座	2018年10月30日～
106	野田 正人	子どもの虐待	京都府井手町人権子育て講演会 いづみ人権交流センター	2018年11月10日～
107	野田 正人	SSWに求められる役割について	岐阜県農業福祉会館 岐阜県スクールソーシャルワーカー研修会 岐阜県社会福祉士会	2019年1月18日～
108	野田 正人	児童虐待にできること	三重県明和町中央公民館 明和町子ども家庭支援ネットワーク	2019年2月2日～
109	野田 正人	学校でのアセスメントについて	和歌山県第2回スクールソーシャルワーカー活用連絡協議会	2019年3月7日～
110	野田 正人	児童を取り巻く現状とソーシャルワーカーの役割	花園大学 京都社会福祉士会記念講演	2019年3月30日～
111	北岡 明佳	錯視・錯聴コンテスト・10周年記念総合グランプリ決定コンテスト主催	明治大学中野キャンパス6階セミナー室3	2019年2月25日～
112	東山 篤規	さまざまな逆さまの世界	日本臨床皮膚科医会近畿ブロック会報	2019年2月15日～2019年2月15日
113	荒木 寿友	立命館小学校 立命科 研修講師		2018年4月～2019年2月
114	荒木 寿友	大東市立四条北小学校 道徳研修講師		2018年5月～2018年10月
115	荒木 寿友	奈良教育大学附属中学校教育研修会	奈良教育大学附属中学校	2018年7月～2018年8月
116	荒木 寿友	茨木市授業力向上研修(道徳)	茨木市教育委員会	2018年8月3日～2018年8月3日

117	荒木 寿友	大阪府北河内地区小学校教頭 会研修会	大東市民会館	2018年8月 8日～2018 年8月8日
118	荒木 寿友	大阪府人権教育研究協議会夏 期セミナー 子どもの人権A 「子どもの人権」が大切にさ れる授業づくり ～価値観を ゆさぶり、豊かな生き方をつ くる～	大阪府人権教育研究協議会 たかつガーデン	2018年8月 23日～2018 年8月23日
119	荒木 寿友	にいがた未来創造講座 2018 「もっとモヤモヤとワクワク を生み出すファシリテーショ ン」		2018年9月 21日～2018 年9月21日
120	渡辺 克典	障害・病をもつ人びとによる 当事者運動	JMOOC 講座 立命館大学「生存学の企て——病い、老い、障害とともに」	2019年1月 ～2019年2 月
121	松原 洋子	「論点争点 強制不妊で国提 訴 優生政策解明と検証を」 (インタビュー)	日本経済新聞	2018年5月 28日～2018 年5月28日
122	松原 洋子	「強制不妊手術 法案修正過 程の「攻防」 対象拡大にG HQ疑義 ゆがんだ「理想」 排除正当化」(コメント)	『毎日新聞』	2018年6月 25日～2018 年6月25日
123	松原 洋子	0	公開講演会 第47回社会福祉のフロンティア「旧優生保護法と強制不妊手術：国 家責任を問う」、立教大学社会福祉研究所、立教大学池袋キャンパス	2018年6月 30日～2018 年6月30日
124	松原 洋子	「調査報道、当事者救済導 く」(コメント)	『毎日新聞』	2018年9月 6日～2018 年9月6日
125	松原 洋子	「優生保護法の歴史と現在」	9. 24共に生きる集会 「踏みにじられてきた障害のある人の性と生殖—優生 思想のない地域社会に向けて」、優生思想のない地域社会を創る会、熊本学園大 学	2018年9月 24日～2018 年9月24日
126	松原 洋子	「優生保護法と日本の優生政 策」	まちだ市民大学 HATS 人間学「人間科学」講座、町田市教育委員会生涯学習部、 町田市生涯学習センター	2018年10 月3日～ 2018年10 月3日
127	松原 洋子	「優生学の歴史と現在—優生 保護法を中心に」	大阪私立学校人権教育研究会 障がい者問題研究委員会、大阪市ドーンセンター	2018年10 月16日～ 2018年10 月16日
128	松原 洋子	「優生保護法と強制不妊手術 —その歴史的背景」	全日本民主医療機関連合会理事会、平和と労働センター（東京都文京区）	2018年10 月19日～ 2018年10 月19日
129	松原 洋子	「実態解明は国の責任」(隠 れた刃 戦後の闇優生保護	京都新聞	2019年2月 14日～2019

		法)		年2月14日
--	--	----	--	--------

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	林 勇吾	Institute of Intelligent Systems	Best Full Paper Award: ITS2018		2018年6月
2	若林 宏輔	日本パーソナリティ心理学会	第26回日本パーソナリティ心理学会・優秀大会発表賞	評議の中で人はどのような変化をみせるのかー模擬裁判員裁判・評議のテキスト分析からー	2018年8月
3	山崎 優子	法と心理学会	法と心理学会第18回大会発表賞	取調手法によってもらされる被告人への偏った印象はカメラアングルによって強化される	2018年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	稲葉 光行	メタバースを用いた日本の伝統文化及び生活文化の状況学習支援環境に関する総合的研究	基盤研究(B)	2015年4月	2020年3月	代表
2	中村 正	親密な関係における暴力加害者の特徴と暴力から離脱する過程の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	分担
3	大谷 いづみ	生命倫理学・死生学における安楽死・尊厳死論の変容とキリスト教の歴史的社会的影響	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	代表
4	森久 智江	危険社会における終身拘禁者の社会復帰についての総合的研究:無期受刑者処遇の社会化	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	分担
5	村本 邦子	レジリエンスを引き出す災害後のコミュニティ支援モデルの構築	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
6	松本 克美	修復的正義の観点からのく損害の可視化>を実現するための損害論の法心理学的再構築	基盤研究(C)	2016年10月	2019年3月	代表
7	安田 裕子	人の生の潜在性と可能性に接近する TEAー文化をとらえ、分岐をつくる	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
8	林 勇吾	協同学習におけるエージェントベースのリフレクションに関する総合的検討	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
9	若林 宏輔	裁判員裁判評議を想定した集団討議実験と大型模擬裁判による比較の試み	若手研究(B)	2016年4月	2019年3月	代表
10	上宮 愛	子どもへの聴き取りで用いる補助物(人形)の特徴が報告内容及び影響	若手研究	2018年4月	2021年3月	代表
11	金 成恩	生殖補助医療の法制度化による子の利益保護と家族形成の支援	若手研究(B)	2016年4月	2019年3月	代表
12	川端 美季	帝国日本の植民地における衛生規範の確立ー公衆浴場の普及に注目して	若手	2018年4月	2021年3月	代表

13	山崎 優子	法学・心理学・脳神経科学の学際的研究による取調の適切性を評価する客観的尺度の構築	挑戦的研究(萌芽)	2018年6月	2021年3月	代表
14	山浦 一保	「自分は大丈夫」という心理を考慮した避難行動メカニズムの解明と避難促進政策設計	挑戦的研究(萌芽)	2018年6月	2021年3月	分担
15	山浦 一保	崩壊した上司一部下の関係性を修復する組織及び職場の最適条件の解明	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
16	早川 岳人	「医療情報の高度利用による健康寿命予測推定モデルの構築と健康寿命の推計に関する研究」	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	代表
17	早川 岳人	地域住民における詳細な認知機能検査結果と十年間の認知症、要介護リスクとの関連解析	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	分担
18	堀江 未来	国際教育プログラムの開発・普及・評価サイクルの構築: 高大連携による学びの実質化	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
19	堀江 未来	大学国際化マネジメントにおける教職協働の実証的研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
20	堀江 未来	「教育経済学」の新たなフロンティアを目指してー国際貿易理論によるアプローチー	挑戦的研究(萌芽)	2017年6月	2020年3月	分担
21	堀江 未来	日中韓の新型留学プログラムにおける言語文化教育の在り方と支援方法の提案	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	分担
22	美馬 達哉	直流刺激と歩行運動のハイブリッド型リハによる下肢機能再建とその脳内機構の解明	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
23	美馬 達哉	発振操作による動的ネットワークの再組織化	新学術領域研究	2015年6月	2020年3月	代表
24	美馬 達哉	「老成学」の基盤構築ー<媒介的共助>による持続可能社会をめざして	基盤研究(B)	2015年7月	2019年3月	分担
25	美馬 達哉	記憶・想起の脳機能ネットワークの解明と認知症早期治療システムの構築	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担
26	美馬 達哉	脳卒中患者に対するVR技術を用いたトレッドミル歩行の効果と回復メカニズムの解明	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
27	美馬 達哉	臨床音楽による癒し感の生理・心理的定量化手法の開発ー音楽併用リハビリテーションー	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
28	美馬 達哉	非線形発振現象を基盤としたヒューマンネイチャーの理解	新学術領域研究(研究領域提案型)	2015年4月	2020年3月	分担
29	DUMOUCHEL PAUL	カタストロフィの分配的正義論	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	分担
30	サトウタツヤ	グローバリゼーション時代における新しい心理学史の叙述	挑戦的萌芽研究	2015年7月	2019年3月	代表

31	北出 慶子	日中韓の新型留学プログラムにおける言語文化教育の在り方と支援方法の提案	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
32	北出 慶子	アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担
33	斎藤 進也	立方体型情報ビューアによる視覚的データ管理手法の構築	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	代表
34	山口 洋典	市民性涵養の関係性モデルを軸とした地域参加学習カリキュラムと教授法の開発	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表
35	岡本 尚子	助言が学習者に及ぼす情意的影響の生理学的分析	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	代表
36	岡本 尚子	視線と脳活動の同時計測による思考過程と思考負荷の可視化	若手研究(A)	2017年4月	2021年3月	代表
37	岡本 尚子	全国15万人の不登校・外国籍生徒のためのYouTube版算数・数学コンテンツ開発	挑戦的研究(萌芽)	2017年6月	2020年3月	分担
38	岡本 尚子	アクティブラーニングに活用できる教室用音声環境の開発	挑戦的研究(萌芽)	2017年6月	2020年3月	分担
39	安田 裕子	人の生の潜在性と可能性に接近するTEA一文化をとらえ、分岐をつくる	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
40	安田 裕子	大学生のキャリア発達プロセス可視化による自己形成の基礎研究と国際間比較	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	分担
41	TAJAN NICOLAS	子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム運用検証とリスク介入戦略の構築	基盤研究(B)	2018年4月	2023年3月	分担
42	TAJAN NICOLAS	子どもの精神病リスク早期スクリーニングに関する日仏共同研究	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2018年10月	2024年3月	分担
43	孫 怡	祖父母の育児参加による幼児のパーソナリティ発達及び親子のQOLへの影響-日中比較	若手研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
44	土田 宣明	運動抑制に影響する要因の年齢差-エラーの原因は若年者と高齢者で異なるのか?	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
45	岡田 まり	社会福祉士のスーパーバイザー養成プログラムの開発と評価	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
46	岡田 まり	成長に応じるスーパービジョンモデルとバイザー研修・支援システムの構築に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	分担
47	松田 亮三	多元的な地域特性からみた近隣健康格差とその動態解析	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	分担
48	松田 亮三	変動する社会における社会保障公私ミックスの変容-量質混合方法論による接近	基盤研究(B)	2014年4月	2019年3月	代表
49	斎藤 真緒	虐待・介護殺人予防としての男性介護者のピア・サポート活動の可能性と課題	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
50	津止 正敏	ケア包摂型コミュニティのダイナミズムと開発主体アソシエーションに関する臨	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表

		床研究				
51	松原 洋子	戦後日本の人工妊娠中絶の制度史：医療・人口・地政学	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
52	谷 晋二	ASD者への教育及び就労支援のためのACTプログラムの作成と有効性の検討	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
53	岡本 直子	幼児のファンタジーの体験および意味づけー幼児と養育者の関わりの素材としての活用	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
54	丸山 里美	Living on the Streets in Japan:Homeless Women Break Their Silence	研究成果公開促進費	2017年4月	2019年3月	代表
55	丸山 里美	日本社会における困窮女性の実態把握と売春防止法改正に向けた理論的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
56	丸山 里美	オルタナティブ家族で精子提供によって出生した子の情報開示ジレンマに関する研究	挑戦的研究(萌芽)	2017年6月	2020年3月	分担
57	丸山 里美	「女性の貧困」を捉える：世帯内資源配分に着目した実証研究の方法の開発	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	分担
58	丸山 里美	子どもの貧困に関する総合的研究：貧困の代代的再生産の過程・構造の分析を通して	基盤研究(A)	2016年4月	2020年3月	分担

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	中村 正	多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築	国立研究開発法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 戦略的創造研究推進事業	2016年10月	2019年3月	分担
2	岸 政彦	戦後沖縄社会の構造変容ー戦争体験と戦後の生活史の実証分析	第47回(平成30年度)三菱財団法人 人文科学研究助成	2018年10月	2019年9月	代表
3	仲 真紀子	多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装	戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」研究開発領域 研究開発プロジェクト	2015年11月	2018年11月	代表
4	早川 岳人	新旧(1980-2020年)のライフスタイルからみた国民代表集団大規模コホート研究：NIPPON DATA80/90/2010/2020	厚生労働行政推進調査事業費	2018年4月	2021年3月	分担

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当なし								